

令和3年度
社会福祉法人 やおき福祉会
事業報告書

<目次>

1. 法人事業報告	3～7
2. 法人組織	8
3. 各事業所の事業報告	
(田辺市)	
① 紀南障害者地域生活支援センター	9～12
② やおき工房	13～20
③ ゆうあいホーム（白浜町・上富田町含む）	21～24
④ 訪問介護支援センター	25～26
⑤ 陽だまり	27～33
⑥ ハモニティ	34～37
⑦ 紀南障害者就業・生活支援センター	38～42
⑧ 紀南地域活動支援センター	43～45
⑨ サンヒルズ（みなべ町含む）	46～48
(田辺市：中辺路・本宮)	
⑩ 古道ヶ丘・本宮くまのこ作業所	49～56
⑪ こどうの家、第2こどうの家	57～59
(田辺市：龍神)	
⑫ 龍の里作業所、柳瀬出張所	60～64
(上富田町)	
⑬ かしのき	65～67
(白浜町)	
⑭ か～む	68～72
(みなべ町)	
⑮ すまいる	73～78
(すさみ町)	
⑯ いなづみ作業所	79～83

令和3年度 法人事業報告（案）

令和3年度の事業計画・法人基本方針に沿って以下の点について取り組んだ。

1. 利用者視点に立った円滑な福祉サービス事業の展開

社会福祉法人として、利用者のエンパワメントを大事にしながら、虐待防止法や差別解消法等を遵守するとともに、各事業の特性を生かした支援を総合的に行った。

① 地域から様々な相談を受け、市町と連携した委託相談、サービス等利用計画作成における相談支援等を通して、円滑な地域生活を送るために必要な支援を行うとともに、地域相談支援体制の向上に向け、行政と連携して取り組んだ。

② グループホームについては、ゆうあいホーム再編後の円滑な運営を確保し、合理的な運営をすすめた。サンヒルズの整備についてはクローバーの今後の活用について協議をすすめ、ハモニティーの作業棟拡張に繋いだ。南紀の台物件については、令和3年4月よりゆうあいホームの従たる事業所「なないろ」として7名定員で運営を開始した。また、みなべ鹿島ホームに関しては移転を行い、みなべ地域のグループホーム利用者の居住確保を行った。

③ 一般就労については制度の水準達成を果たすとともに就労定着を重視した支援を行った。就労系事業所ではB型事業所の工賃アップを目標とした授産努力を連携で行いつつ、個々の利用者のニーズに応じて、一般就労や他事業所等へのステップアップを図るとともに生活面の支援も各事業所において一体的に実施した。

④ 余暇及び生きがいに対する取り組みについては、事業所ごとに、集団活動・交流を目的としたレクリエーションや旅行、地域のイベントなどの参加等、楽しめる機会を積極的に取り組んだ。

⑤ 地域格差を生まない取り組みとして、事業所間での情報共有を諮り、密な連携を行うことで、事業所が相互に高まっていけるよう取り組んだ。

⑥ 利用者自身が選択・決定できるよう、サービス等利用計画、各事業所における個別支援計画に基づくモニタリングを丁寧に行うことで、利用者の希望を聞く機会を確保して支援を行った。

⑦ 法令に基づく虐待防止、人権擁護、差別解消等の取り組みについては法人各事業所において意識的に実施するとともに、2か月に1回の頻度で苦情相談委員会を開催する等、個別の案件をくみ取りながら人権意識の向上に取り組んだ。なお、年1回、県が実施する「虐待防止研修」及び「伝達研修」に参加し伝達研修会を行った。

⑧ 高齢化する障害者の支援体制については、個別に事例検討を実施し、利用者に必要な支援を考えるとともに、必要に応じ、高齢資源との連携を図ってきた。その他、「居住支援法人事業」において高齢者を含めた「住まい確保」の問題について、法人内を始め行政や地域資源と課題共有を行った。

2. 財務運営

令和3年度は、健全な財務運営を継続しつつ、近い将来に直面するであろう郡部の利用者減少や高齢化・他事業所との競合に備えるための施設整備を昨年度に引き続き実施した。

具体的にはB型事業所ハモニティーの新棟設置計画を実施・完了させた。また、「新社会福祉法人制度」のもとでの財務運営も定着し、「地域貢献」に提供される「余裕財産＝再投下計画」については、本年度も対象とはならない運営を行うことができた。

① 毎月、法人全体の充実財産試算表を作成し、計画性を持った運営を行った。

② 資産の有効活用については、利用者処遇や給与規程の改定などを通して質の向上に期するとともに、将来を見据えたバランスに配慮した活用をすすめた。

③ 建物及び設備への計画的な投資については、現在の利用者支援ニーズを踏まえて、ハモニティーの授産拡張や新たな居住にニーズに備えたホーム建設、安全確保のための車輛購入等に投資を行った。

④ 職員の安定雇用を目的として本年度も定期昇給を実施した。

⑤ 新型コロナウイルス対策の一環である職員の処遇向上のための助成金を申請し、令和4年2月分給与より賃金改善を行った。

3. 人材の採用・育成と長く働き続けられるしくみづくり

全国的な人材不足の傾向は本地域ではより深刻な問題となっており、本年度も離職に伴う適時の採用に困難な側面があり、取り分け、旧市外の事業所において顕著だった。

「働き方改革」については有給休暇の取得等、法人各事業所において推奨しながら、国の基準に沿った取得を促進した。

その他、在職中の人材育成の取り組みとしてはコロナ禍の影響により主任研修、法人研修部による各種の研修は中止もしくはリモート研修への切り替えなどを行った。

- ① 人事ヒアリングについては昨年度より質の向上を図り個別に実施した。
- ② 法令に定められている虐待防止研修、人権擁護研修、安全・災害対策研修については、それに類する取り組みは事業所毎に実施したが、新型コロナ対策等の影響から、研修に関しては全般的に自粛傾向となり十分な実施には至らなかった。
- ③ 主任研修は、コロナ禍により未実施。
- ④ その他については、新人職員研修を実施（少数のため）。研修部主催研修はコロナ禍で未実施、各事業所毎での必要な研修については感染予防を徹底した上で少数にて実施した。また、法人内での必要な会議等についてはWEB会議を実施した。

4. 社会福祉法人としての役割の推進

法令・制度を遵守しながら「地域貢献」を意識した運営を行った。他の株式会社や特定非営利法人にはない連携や地域交流を図り「給付」の対象とならない活動も積極的に行った。

その他、法人内に「居住支援部」を設置し、地域全体の課題となっている障害者や高齢者等の住まい問題、空き家・空き室問題を改善することを目的とした「居住支援事業」を実施し、居住相談を行いながら課題解決に向けて取り組んだ。

5. その他

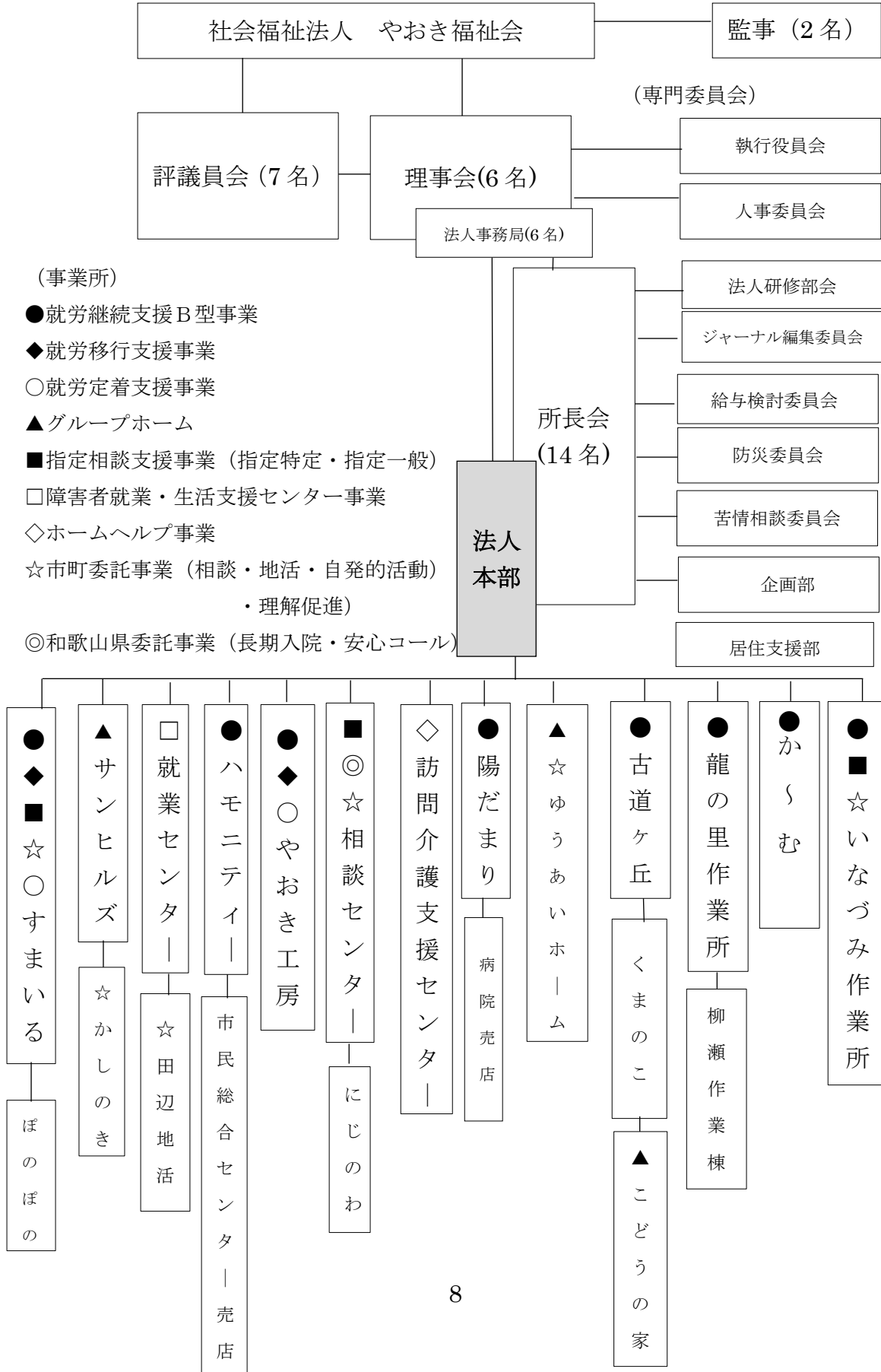
コロナ禍への対応として、各事業所への給付金とりまとめ、施設での備品・消耗品等の購入後の助成金申請を行った。また、県内・圏域内での感染拡大時には臨時での会議を開催し職員・利用者の方々への行動自粛についての依頼等を行ってきた。法人内での感染者は令和3年5月に事業所閉鎖となる事案が1件発生したものの、以降は単独感染や濃厚接触者等が数名出たものの、事業の一時中断に至るような感染は発生せず大事には至らなかった。感染者発生に備えての対応についてのシミュレーション、対応者の確認等を行ってきた。

6. 法人行事報告

年月	役員会・行事等	広報・研修活動等
4月	1日 辞令交付式・勤続表彰式 6日 法人事務局会議 19日 所長会議 20日 執行役員会	20日 苦情担当者会議
5月	11日 法人事務局会議 17日 所長会議 19日 監事監査 22日 理事会 26日 執行役員会	
6月	1日 法人事務局会議 4日 選任・解任委員会 21日 所長会議 23日 執行役員会 26日 評議員会	7日 ジャーナル 91号発行 22日 苦情担当者会議
7月	6日 法人事務局会議 19日 所長会議 28日 執行役員会	8日 ボラ事業会議 7/9、7/16、7/30 新人職員研修①～③ 29日 ボラ事業会議
8月	7日 法人事務局会議 6日 理事会（一次補正） 23日 所長会議 25日 執行役員会	6日 新人職員研修④ 24日 苦情担当者会議
9月	7日 法人事務局会議 27日 所長会議 25日 執行役員会	2日 ボラ事業会議 8日 ジャーナル 92号発行 16日 ボラ事業会議
10月	5日 法人事務局会議 14日 人事委員会 18日 所長会議 27日 執行役員会	19日 苦情担当者会議 11日 ボラ事業会議
11月	2日 法人事務局会議 15日 所長会議 24日 執行役員会 26日～27日 所長ヒアリング 26日 理事会（二次補正）	1日 ボラ事業会議 22日 ボラ事業会議 29日 ボラ事業会議

1 2月	7日 法人事務局会議 19日 職員登用試験 20日 所長会議 22日 執行役員会 27日 人事委員会	21日 苦情担当者会議 22日 ジャーナル 93号発行
1月	13日 法人事務局会議 27日 所長会議 26日 執行役員会	13日 給与改定小委員会
2月	1日 法人事務局会議 18日 理事会（三次補正） 18日 人事委員会 21日 所長会議 24日 執行役員会	16日 給与改定小委員会 22日 苦情担当者会議
3月	1日 法人事務局会議 14日 所長会議 19日 理事会（事業計画・当初予算） 23日 執行役員会	2日 ジャーナル 94号発行 11日 B型4事業所会議 26日 法人虐待防止研修

7. 法人組織（令和3年度の組織及び実施事業）



【指定相談支援事業】

令和3年度 紀南障害者地域生活支援センター事業報告（案）

1. 運営概況

令和3年度は、「指定特定相談支援」、入院患者の退院を支援する「指定一般相談支援」、圏域で統合された「委託相談支援」、白浜町の「自発的活動支援事業」、「障害者地域啓発等理解促進事業」、和歌山県の「長期入院精神障害者地域移行促進事業」、国交省の「居住支援事業」の7種9事業を行ってきたが西牟婁圏域として統合された「委託相談」が障害児者相談支援センター「にじのわ」として再編されたことにより、相談体制の変更に伴い地域相談支援体制が馴染むまでに少し時間を要した。支援状況としては前年度に引き続き「新型コロナウイルス感染症予防対策」を踏まえながらの支援となり、若干、影響を受けることもあった。

相談支援事業所としては、行政から「地域生活支援拠点」の機能として認定を受けるとともに、他の相談事業所と連携して実施する体制（複数の事業所が連携することで受けられる報酬体系を活用）を整えてきた。このように例年にない変化があったが、状況に応じた活動を行うことができたと考えている。

2. 事業報告

① 指定特定相談支援（計画相談支援 ※サービス等利用計画の作成とモニタリング）

本年度、改定があった「複数の事業所の連携による基本報酬」の設定に関する申請を行い、12月から指定相談支援事業所「ユアセルフ」との間で連携した相談支援を実施することとなった。（毎月の連携会議の開催、連携による事例検討・研修の実施、現場でのケース連携等）

② 指定一般相談支援（地域相談支援）

精神科病院からの「地域移行支援（退院支援）」については、病院や他機関からの要請がなく、今年度も制度の利用はなかった。地域生活の安定を図る「地域定着支援」についてもニーズが少なく、後期以降は利用者無しとなった。

③ 市町相談支援事業（委託相談支援）

西牟婁圏域の市町村（田辺市・みなべ町・白浜町・上富田町・すさみ町）から一般的な相談支援の委託を受け、地域生活等に関する必要な相談を実施した。今年度の委託形態は以下のとおりである。

名 称 西牟婁圏域障害児者相談支援センター「にじのわ」

対象地域 西牟婁全体

所在地 田辺市民総合センター 2階

運 営 やおき福祉会、ふたば福祉会、和歌山県福祉事業団、田辺市社会福祉協議会

派 遣 やおき福祉会より専任相談支援専門員 2名

④ 長期入院精神障害者地域移行促進支援事業

和歌山県から委託を受け、精神科病院で長期入院となっている「退院したいという意思が芽生えていない人」を対象として退院意欲の喚起を目的として実施した。利用者は継続者 1名であったが、本人の希望が伴わず年度末を持って終了した。

長期入院精神障害者に関する課題が継続されていることから、年度末に職種間の連携会議を開催し、令和 4 年度の在り方について検討を行った。この結果、次年度においては市町の義務となった「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの整備」と併せた地域課題として連携体制を強化し取り組んでいくことを確認した。

⑤ 白浜町自発的活動支援事業

白浜町からの委託を受け、日中の福祉サービスの利用に馴染まない人たちに対して、月 3 回のデイサロン日を設け、うち月 1 回は、プログラム活動として、電車を利用した外出、平草原、買い物、ボウリング、かき氷、水族館、BBQ、クリスマス会、海洋公園等の取り組みを行った。、時期時期の新型コロナウイルス感染症予防対策に応じて配慮しながら実施した結果、利用者においては特に不安な様子は見られなかった。

⑥ 白浜町啓発等理解促進事業

本年度は、ぼらんちを閉鎖し、委託相談「にじのわ」への再編があったため、町内資源を案内する「ハンドブック」の変更が必要となったため、改訂版の作成のみ実施した。他の事業も予定していたが、町民や職種を対象とした講演関係であったため、新型コロナウイルス感染症の収束が見られなかったことにより中止した。

⑦ 居住支援事業

県の居住支援指定法人の更新を行い、国土交通省の補助事業を活用しながら居住支援に取り組んだ。前年度より継続する「見守り支援対象者」を含めて 17 名の利用者があった。このうち、実際に転居につながった人が 6 名であり、相談センターが引っ越し支援を行った利用者は 3 名であった。

3. 地域ネットワーク活動

① 西牟婁圏域自立支援協議会活動

協議会の事務局に参加するとともに精神保健福祉部会の活動を行った。また、令和 3

年度、「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた協議の場」として精神保健福祉部会と全市町の連携による事例検討会を担当し、活動を行った。

② 圏域委託相談法人会議の活動

4 法人による「にじのわ」及び「基幹相談センターにしむろ」の協働運営について、毎月、協議を行うとともに、市町行政と連携して方向性の共有を図った。

③ 県連携会議の開催

県の主幹する精神障害者地域移行関連連絡事業所連絡会に参加する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催はなかった。

4. その他の活動

- ① 新型コロナウイルス感染症で制限はあったが支援の向上を目的として事業所内での事例検討や制度研修、他機関の実施する研修等に参加した。
- ② 行政及び諸団体の委員・役員等を担い支援協力等を行った。

5. 行事報告

年月	支援業務	行事等
4 月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、地域定着支援・長期入院者支援、居住相談住宅確保支援・見守り	デイサロン（電車）
5 月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、地域定着支援・長期入院者支援、居住相談住宅確保支援・見守り	デイサロン（平草原）
6 月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、地域定着支援・長期入院者支援、居住相談住宅確保支援・見守り	デイサロン（買い物、ボウリング、ワッフル店）
7 月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、地域定着支援・長期入院者支援、居住相談住宅確保支援・見守り	デイサロン（かき氷）
8 月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、地域定着支援・長期入院者支援、居住相談住宅確保支援・見守り	デイサロン（白浜水族館）
9 月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、地域定着支援・長期入院者支援、居住相談住宅確保支援・見守り	デイサロン（B型見学）
10 月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、地域定着支援・長期入院者支援、居住相談住宅確保支援・見守り	デイサロン（本宮大社、買い物、湯浅）
11 月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、地域定着支援・長期入院者支援、居住相談住宅確保支援・見守り	デイサロン（BBQ）
12 月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、地域定着支援・長期入院者支援、居住相談住宅確保支援・見守り	デイサロン（クリスマス&忘年会）

1月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、地域定着支援・長期入院者支援、居住相談住宅確保支援・見守り	デイサロン（白崎海洋公園）
2月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、地域定着支援・長期入院者支援、居住相談住宅確保支援・見守り	デイサロン（観梅）
3月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、地域定着支援・長期入院者支援、居住相談住宅確保支援・見守り	デイサロン（B型見学）

6. 数値実績（委託相談・指定特定相談・指定一般相談）

項目	にじのわ（4法人）	相談センター
相談支援専門員数	8名（うち、やおき2名）	3人（2.6人）
事務員	1名	1名（管理者）
相談支援件数 計	12,277件（4法人）	4,394件

相談センター障害別相談件数

精神障害	知的障害	身体障害	発達障害	高次脳	難病	不明（※高齢含）
2,843	632	149	373	88	23	286

相談センター年代別相談件数

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	児童
件数	34	682	728	1,057	1,049	472	234	36

県委託事業支援件数

事業 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
長期入院事業 （1人）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12

居住支援事業支援件数

事業 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
居住支援事業 （17人）	36	20	48	30	49	30	23	34	58	37	31	43	439

【就労移行支援・就労継続支援 B 型・就労定着支援】
令和 3 年度 やおき工房 事業報告（案）

1. 運営状況

今年度は就労移行支援（定員 6 名）及び就労継続支援 B 型（定員 20 名）、就労定着支援（定員なし）の 3 事業の運営を行った。

就労移行支援では年度中の新規利用者が 4 名で、内訳は支援学校の卒業生が 1 名、他法人の自立訓練事業利用者が 1 名、法人内 B 型事業所から 1 名と退職による再利用が 1 名であった。支援学校や自立支援協議会就労支援部会、相談支援事業所等と連携しながら課題も共有しているが依然として利用者数は少ない状況にある。就職者は 3 名であった。

就労継続支援 B 型では、授産活動ではコロナ禍もあり大きな増収は図れなかった。製菓の販売や農事（梅拾いや除草作業、梅の剪定枝集め等）で若干増収が図れたものの、これまで主要な収入源であったバスマット作業が終了したことは大きな痛手となった。また、利用者状況では、長期休所が目立った。病気による長期療養や家族の死亡による精神的変調による入院、半月板損傷による入院・手術、家族の入院手術による生活不安定等々理由は様々であるが、年度末時点で 3 名が長期休所の状態が継続している。家族や利用者自身の高齢化による環境変化を見越しながら支援していくことの重要性を感じている。

就労定着支援においては 7 名が利用した。コロナ禍の影響でホテル業などでは勤務日数や時間が減らされる等した利用者もいた。内 1 名が離職し就労移行を再利用することとなった。それ以外は概ね定着している。

2. 事業報告

① 就労支援活動

【就労移行支援】

- (1) 就職者：3 名（5 月 教育委員会・事務補助、6 月 100 円ショップ・販売員、10 月 ベンダー・ピッキング作業員）
- (2) その他の退所者：2 名（1 名は就労アセスメント後 B 型に転籍、もう 1 名は利用期限終了に合わせて B 型に転籍して引き続き就労支援を行った。）
- (3) 併用利用者：3 名（1 名は午前半日就労、2 名は週 3～4 日の隔日就労）その内 1 名は次年度以降フルタイム勤務となるため年度末で退所。あとの 2 名は利用期限終了に伴い B 型に転籍となった。
- (4) 就労アセスメント利用者：11 名（全員が他法人の B 型利用予定者であった。ほとんどが数日間の利用で受入れ側としての負担は大きい。圏域内の就労移行移行事業所も減っており今後も負担は続きそうである。）

(5) 授産活動

- i 給食事業：年間喫食数は 15,751 食であった。給食提供日は 223 日で 1 日当たりの平均喫食数は 70.6 食であった。

【就労継続支援 B 型】

- (1) 新規利用者：4 名（移行から転籍 2 名、法人内 B 型事業所から 1 名、地域から 1 名）
(2) 退所者：3 名（他法人 B 型へ 1 名、契約解除 1 名、他府県への転居 1 名）
(3) 長期休所者：3 名（病気・手術後の療養 1 名、精神科入院中 1 名、整形外科・リハビリ入院中 1 名）

(4) 授産活動

- i 受託作業：年度途中よりこれまで大きな収入源であったバスマット作業が終了する。加えて、上富田スポーツセンターのトイレ清掃委託費の減額をせまられ、次年度以降減額予定である。減額分の収益確保のため農事作業（梅の剪定枝集め等）に取り組み始めたが大きな改善には至っていない。今後も減額分の収益確保が課題となっている。

- ii 内職作業：コロナ禍で停滞していた菓子箱折りは幾分上向いてきた。亀井商店や中田食品等の内職作業と合わせて作業が停滞することはないものの大きな収入源にはなり得ない。

- iii 販売事業：今年度は販売事業に力を入れ 70 万円弱の増収となった。委託販売先が 1 件増え、菓子を 3 種類（ブルドネージュ、ラングドシャ、ガトーショコラ）増やした。また、クリスマスやバレンタイン、母の日等の季節イベントのギフトセットを販売し売り上げ増を図った。和歌山県セルフセンターのカタログ販売「わっくる」にも取り組み、ゆうやけクッキーの OEM を受注した。ゆうやけクッキーはプレミアム和歌山に申請したが通らなかった。メモ帳は 1,200 冊程度の販売に留まっている。Eco ピカセスキについては年度途中から詰替用の販売を始めたが停滞している。

【就労定着支援】

- (1) 利用者：7 名（相談支援や企業訪問等を行い職場定着を支援した。年度途中で 1 名が退職となった。ホテル業の 1 名はコロナ禍で勤務日数や時間が減らされた。職種の適性にも課題が出てきており、転職の可能性も視野に就労移行への転籍を町役場と調整中である。）

② 生活支援活動

- (1) 土曜開所：15 回開催する。今年度は作業日として開催することがほとんどであった。余暇支援としては映画鑑賞会（7/22 ジストシネマ田辺）、ボウリング&お食事会（12/18 ジストボウル田辺、銀ちろ）のみであった。

- (2) 健康管理：
- i 健康診断 (3/11、17 白浜はまゆう病院) を実施し健康管理の支援に努めた。
また、運動が必要な利用者を対象に定期的にウォーキングを実施した。
 - ii 健康講座を予定していたがコロナ禍のため開催を断念した。その代わりに、全国健康保険協会和歌山支部よりお借りした血管年齢測定器で、希望した 18 名の血管年齢を測定し健康管理への意識付けを行った。(3/2 やおき工房)
- (3) 学習支援：
- i 障がい者のための就職活動支援セミナー (9/28 上富田町文化会館) に 3 名が参加し、就労への意識付けを行った。
 - ii 就業センターのピアサポーター研修会 (3/24 就業センター) に 5 名が参加し就労者の生の声を聞き就労への意識付けを行った。
- (4) 余暇支援：コロナ禍で外出レクリエーションは少なかったものの、花見 (4/1 平草原)、映画鑑賞会 (7/22 ジストシネマ田辺)、スポレク (10/13 新庄総合公園)、アウトドア体験 (12/4 古道ヶ丘)、ボウリング&お食事会 (12/18 ジストボウル田辺、銀しろ)、初詣&お食事会 (1/4 鬮鶏神社、桜香) を開催した。一泊旅行については今年度も断念し日帰り旅行 (11/26 御坊市、海南市) に切り替え 29 名が参加した。
- (5) サークル：今年度もコロナ禍により精神障害者ソフトバレーボール和歌山大会の参加及び練習の開催を見送った。
- (6) 防災訓練：11/22 (24 名参加)、3/24 (15 名参加) の 2 回行った。総合訓練に加えて、消火器の使い方を学んだり消火訓練や煙体験を行ったりした。また、田辺市防災まちづくり課による『土砂災害について』の学習会も行った。

③ 個別処遇関係

- (1) 個別支援：A 型事業所を希望する利用者には、圏域の A 型事業所数ヶ所の見学・体験同行を行った。また、グループホームの利用調整を行った利用者が 1 名。ホームヘルプサービスの利用調整を行った利用者が 1 名であった。
- (2) 医療支援：利用者 7 名に受診同行や医師連絡、入院の同行支援等を行った。2 名には服薬管理支援を行っている。今年度は精神的不調による入院が 1 名、内科的疾患による入院が 1 名、外科的疾患による入院が 1 名であった。
- (3) 免許取得支援：1 名に運転免許取得にかかる手続きや学習支援を行い、原付免許を取得した。
- (4) 紀南こころの医療センター訪問看護との定期カンファレンスを 11/12 に実施し、利用者 3 名の情報共有・支援内容の検討を行った。
- (5) 家族懇談会：コロナ禍により中止とした。必要な家族とは個別に調整を行った。

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) ゴミ拾い&ウォーキング：運動が必要な利用者と三栖沿道の清掃ボランティアを行う。計 30 回実施し延べ 126 名が参加した。
- (2) バザー用品等の貸し出し：田辺第三小学校ドッジボールクラブにかき氷機、綿菓子機を貸し出した。(6/5、6)
- (3) バザー活動：コロナ禍で予定していたバザーはほぼ中止となった。田辺市福祉文化祭(11/13 紀南文化会館)はかろうじて開催されたものの、コロナ禍で開催規模は当初より大きく縮小された。
- (4) 赤い羽根共同募金会街頭募金(10/1 グルメシティー万呂店)に 3 名が参加した。

4. その他の活動

- (1) はまゆう支援学校高等部 3 年生 12 名を就業体験(現場実習)で受け入れた。
- (2) 紀南看護専門学校 3 年生 37 名を精神科看護実習で受け入れた。
- (3) 和歌山社会福祉専門学校社会福祉科 2 年生 1 名を社会福祉士現場実習で受け入れた。

5. 行事報告

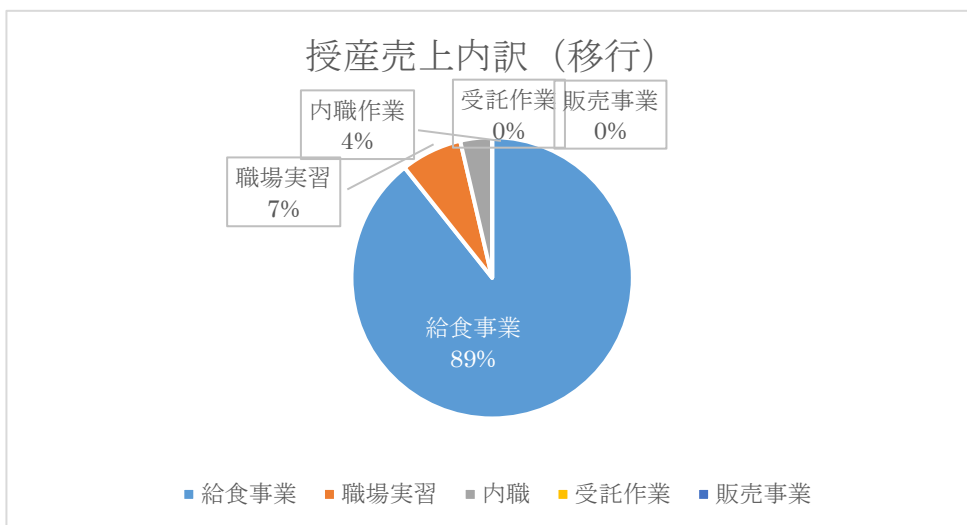
月	日	行事等	備考
4	1 7	花見(平草原) 自治会(役員改選、年間行事計画)	
5	15 29	土曜開所(作業) 土曜開所(作業)	
6	16	DVD鑑賞会	
7	7 10 22	DVD鑑賞会 土曜開所(作業) 土曜開所(映画鑑賞会)於：ジストシネマ田辺	
8	7 28	土曜開所(作業) 土曜開所(作業)	
9	15	DVD鑑賞会	
10	6 9 13 23	自治会(役員改選) 土曜開所(作業) スポレク(新庄総合公園) 土曜開所(作業)	
11	13 18 22 26	土曜開所(作業)、田辺市福祉文化祭(紀南文化会館) インフルエンザ予防接種(うえだ内科外科クリニック) 防災訓練 日帰り旅行(御坊市、海南市)	
12	4 18	土曜開所(作業、アウトドア体験)於：古道ヶ丘 土曜開所(ボウリング&お食事会)於：ジストボウル田辺他	
1	4 22	初詣&お食事会(闘鶏神社、桜香) 土曜開所(作業)	
2	11 26	土曜開所(作業) 土曜開所(作業)	
3	11 12	健康診断(白浜はまゆう病院)3/17 土曜開所(作業)	

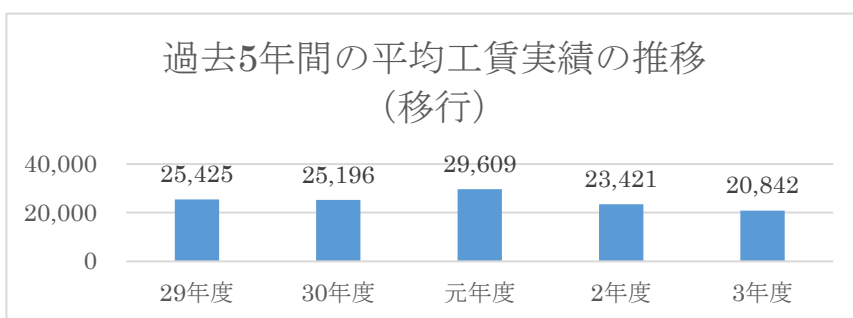
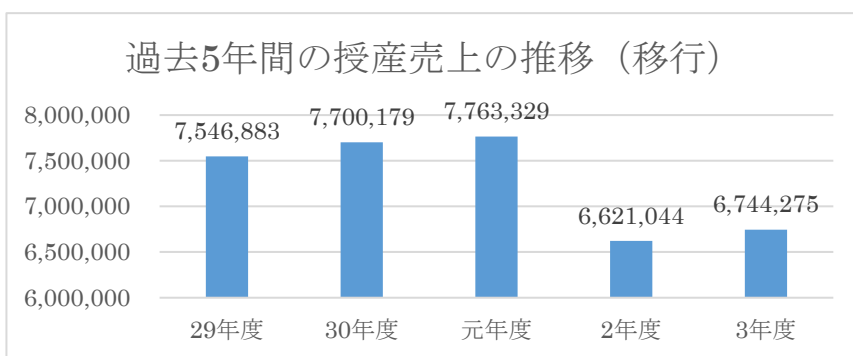
23	年度末お食事会&室内レクリエーション	
24	防災訓練	

6. 数値実績

① 施設概要

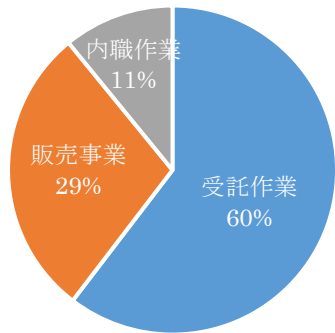
事業種別	【就労移行支援】	
定員	令和3年4月 6人	令和4年3月 6人
実利用者数	令和3年4月 10人	令和4年3月 8人
1日平均利用者数	令和3年4月 8.4人	令和4年3月 5.0人
職員常勤換算配置数	令和3年4月 2.7人	令和4年3月 2.0人
年間稼働日数	総稼働日数 254日	休日開所日数 15日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	給食事業	6,022,270円
	職場実習	475,355円
	内職作業	246,650円
		計 6,744,275円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 なし	実績 月額 20,842円





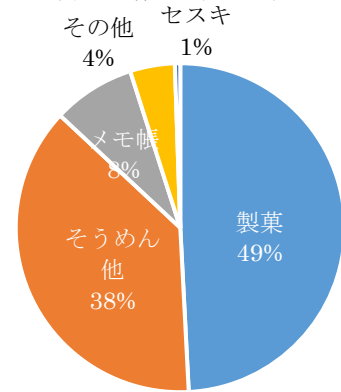
事業種別	【就労継続支援 B 型】	
定員	令和 3 年 4 月 20 人	令和 4 年 3 月 20 人
実利用者数	令和 3 年 4 月 29 人	令和 4 年 3 月 29 人
1 日平均利用者数	令和 3 年 4 月 22.8 人	令和 4 年 3 月 20.7 人
職員常勤換算配置数	令和 3 年 4 月 7.2 人	令和 4 年 3 月 7.1 人
年間稼働日数	総稼働日数 254 日	休日開所日数 15 日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）
	受託作業	3,404,247 円
	販売事業	1,618,243 円
	内職作業	614,638 円
		計 5,637,128 円
工賃実績 （一人当たり）	当初目標 月額 15,000 円	実績 月額 13,927 円

授産売上内訳 (B型)



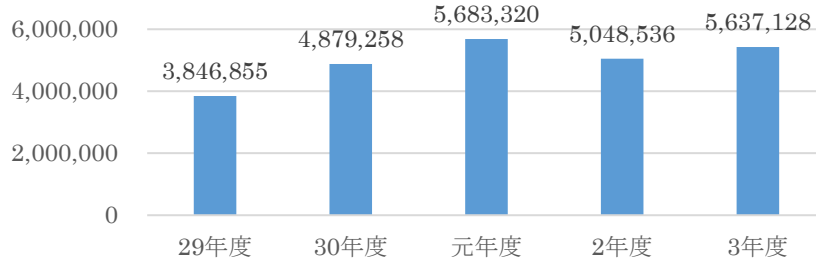
■ 受託作業 ■ 販売事業 ■ 内職作業

販売事業内訳 (B型)

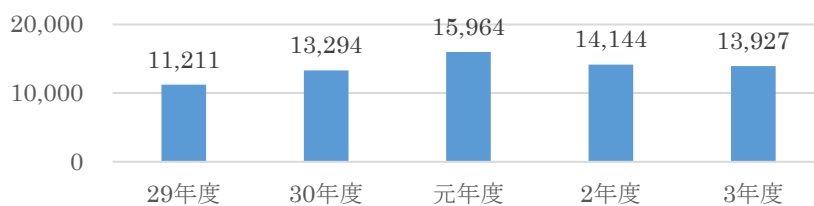


■ 製菓 ■ そうめん他 ■ メモ帳 ■ その他 ■ セスキ

過去5年間の授産売上の推移 (B型)



過去5年間の平均工賃実績の推移 (B型)



②利用実績 (月別)

【就労移行支援】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	8.4	7.2	5.8	5.5	5.6	5.6	4.6	4.4	5.8	5.6	6.3	5.0
開所日数	21	20	22	22	20	20	23	21	22	20	20	23

【就労継続支援 B 型】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	22.8	20.8	23.1	21.9	21.6	20.6	21.4	20.6	20.9	21.1	20.6	20.7
開所日数	21	20	22	22	20	20	23	21	22	20	20	23

③利用者の性別・年齢層（令和4年3月末時点）

【就労移行支援】

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男		4					4
女		2		1			3
計		6		1			7

（平均年齢 26.3 歳）

【就労継続支援 B 型】

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男		3	2	2	7	3	17
女	1	1	1	4	4	1	12
計	1	4	3	6	11	4	29

（平均年齢 46.7 歳）

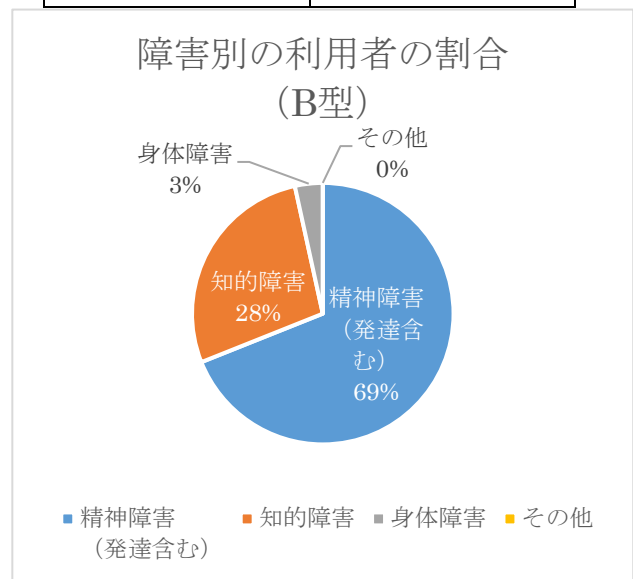
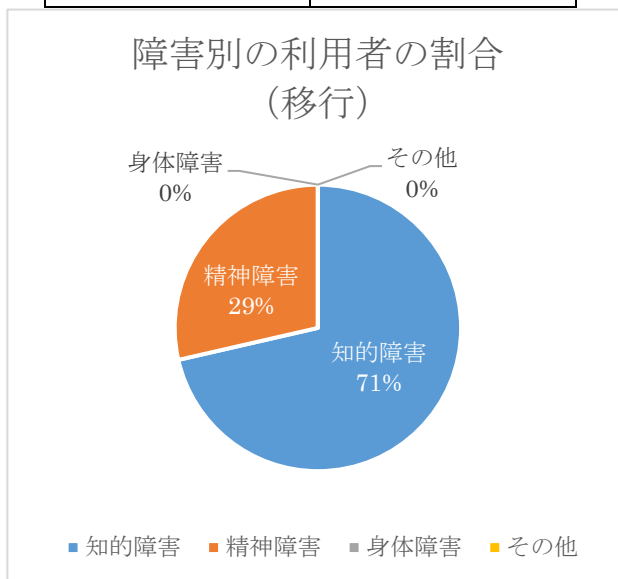
④障害種別

【就労移行支援】

障害名	利用者数
精神障害	2名
知的障害	5名
身体障害	0名
手帳未取得	0名
その他	0名

【就労継続支援 B 型】

障害名	利用者数
精神障害	20名
知的障害	8名
身体障害	1名
手帳未取得	0名
その他	0名



【介護サービス包括型共同生活援助】

令和3年度 ゆうあいホーム事業報告（案）

1. 運営状況

ゆうあいホームを主たる事業所とし、今年度より従たる事業所になないろを加え、その他ほわいとホーム、すてっぷはうす、南紀の台ホームも含め一体的に運営した。定員はゆうあいホーム18名、なないろ7名、ほわいとホーム10名、すてっぷはうす3名、南紀の台ホーム7名で合計45名での運営となった。

① 利用者の入退所

令和3年度は定員45名に対して40名で始まることとなった。なないろの新設に伴う利用者の内部移動も経て、空き居室のあるホームへの新規利用者の受入れを積極的に行い、5名の新規利用者を受け入れた（なないろ3名、南紀の台1名、ほわいと1名）。また、高齢者施設に転居されるケースがあり、退所者は1名だった。

② 入退院に関して

感染症拡大期の閉塞感のためか、精神的に調子を崩される方や、高齢利用者の急な体調不良や転倒による怪我などを理由として、7名の方が入院を必要とする状況となった。精神的な不調により、入退院を繰り返す事例もあった。

③ 新型コロナウイルスへの対応

基礎疾患のある利用者も多く、感染リスクの考えられる事象があれば、抗原検査を実施した。また、一定期間は給食を居室に運ぶなど、集団感染を防ぐための対応も随時取り入れた。

2. 事業報告

① 就労支援活動

- (1) 日中事業所への訪問や電話連絡等で、活動時の様子を把握することに努めた。
- (2) 昼食後の服薬支援が必要な利用者に、日中事業所と連携して支援した。
- (3) 体調不良などがあった際には、日中事業所と連絡を取り合い情報の共有に努めた。
- (4) コロナ感染症の疑いがある事象があった際には、情報の早期の共有に努め、集団感染を未然に防ぐことができるよう取り組んだ。

② 生活支援活動

- (1) 給食の提供（平日の朝食、夕食）を継続して実施した。
- (2) 薬の仕分けや保管、服用に関しての支援が必要な方については、その人に合った方法で服薬管理を支援した。誤薬を防ぐため丁寧な対応に努めた。
- (3) 計画的な金銭の使用が困難な利用者に対して、その人に合った方法において計画的

に使用すること、貯蓄することへの支援を行った。出納簿の記載を徹底し、不安の多い利用者等への情報開示も適宜対応した。

- (4) 個人で受診することが困難な利用者や、医療機関から職員の受診同行を求められた際には、受診同行を行った。総合病院の初診料が高額となり、救急でない限りは地域のクリニック等を受診するよう対応した。
- (5) 必要に応じて、血圧や体重、体温などの測定とその記録を行った。診察時の医師連絡での情報としても活用した。
- (6) 移動手段のない利用者を対象に、週末の買い物支援を継続して行った。尚、地域にコロナ感染事例が発生している際には、職員が買い物を代行することとした。
- (7) 月に1回自治会を開催し、レクリエーションの企画立案や実施を支援した。外食は見合わせ、館内で誕生日会やクリスマス会などの企画を行った。
- (8) ゆうあいホームとほわいとホームに宿直員を配置し、夜間を含めて相談対応や服薬に関する支援をした。夜間支援員を配置しないホームに対しては、事業所の携帯電話を所持した職員による常時連絡体制を確保した。

③ 個別処遇関係

- (1) 個別支援計画を作成し、一人一人の生活課題への取り組みや、目標達成に向けて継続して支援した。
- (2) 個別な相談対応を必要とする利用者も多く、適切な相談支援を行うように努めた。
- (3) 入浴時や更衣等に一部介助を必要とする利用者に対しては、同性支援を行うこととした。
- (4) 相談支援専門員等、関係機関の職員との意見交換や情報共有に努めた。
- (5) 身体拘束廃止の指針を作成し、事業所内での取り組みについて職員間で共有した。また、てんかん発作時に一時的に腕を組む等の軽微な行動制限が必要である利用者については、具体的な支援内容を説明した上で本人、ご家族に同意を得る手続きを行った。

④ 短期入所事業

- (1) 令和3年度の利用者は7名で、延べ54日の利用だった（平均利用0.2名）。
- (2) 利用者の出身市町村の内訳は、田辺市3名、白浜町2名、上富田町1名、みなべ町1名。その内、新規での利用が1名あった。
- (3) 館内でのコロナウイルスの集団感染を防ぐ観点から、感染事例発生している地域からの利用に受け入れの制限を設けることとした。4月～5月、8月～9月、1月～3月の間、利用者の受け入れができなかった。

⑤ 日中一時支援事業

(1) 利用相談がなく、実際の受け入れは無かった。

⑥ 田辺市自発的活動支援事業

(1) 法人内で実行委員会を開催し、企画の内容についての検討や実施に向けての準備を行った。

(2) 当事者活動として、シーカヤック乗船体験、アウトドア体験交流会を開催し、地域啓発を目的とした研修会も開催した。

(3) コロナ感染症の状況により、感染対策を取った上での事業実施に努めた。

3. 地域交流・地域貢献活動

(1) ふれあい文化祭に担当者を派遣して、文化祭の開催準備に協力した。

(2) 地域の清掃活動に参加した。

4. その他の活動

(1) 精神保健福祉士資格取得のための現場実習として、実習生を受け入れた。

5. 行事報告

(1) 12月に忘年会を実施するにあたり、外食の機会を持つことができた。

(2) その他、コロナ感染症の状況から、ホーム内での活動が中心だった。

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【介護サービス包括型 共同生活援助】	
定員	令和3年4月 45人	令和4年3月 45人
実利用者数	令和3年4月 41人	令和4年3月 44人
1日平均利用者数	令和3年4月 40.4人	令和4年3月 42.9人
職員常勤換算配置数	令和3年4月 13.6人	令和4年3月 12.7人
年間稼働日数	総稼働日数 365日	休日開所日数 日

② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	40.4	39.4	39.2	39.8	39.1	40.1	40.0	42.0	42.3	40.7	41.2	42.9
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31

③ 利用者の性別・年齢層（令和4年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男	0	5	4	5	6	4	3	27
女	0	1	1	6	5	3	1	17
計	0	6	5	11	11	7	4	44

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	35名
知的障害	9名
手帳未取得	0名

【訪問介護等事業】

令和3年度 訪問介護支援センター事業報告（案）

1. 運営状況

昨年度に引き続き、独立採算可能な状態にするために新規利用者の獲得に努めるとともに、質の高いサービス提供に向け研修を充実させた。また、職員体制の充実を図り登録職員を中心に職員の増員を行った。

2. 事業報告

（1）事業概要

① 身体介護（居宅介護・訪問介護）

- 入浴介助…入浴の介助又は、入浴が困難な方は体を拭く（清拭）などを行った。
- 排せつ介助…排せつの介助、おむつ交換を行った。
- 食事介助…食事の介助を行った。
- 体位変換…体位の変換を行った。

② 家事援助（居宅介護・訪問介護）

- 調理…利用者の食事の用意を行った。
- 洗濯…利用者の衣類等の洗濯を行った。
- 掃除…利用者の居室の掃除を行行った。
- 買い物…利用者の日常生活に必要な物品の買い物を行った。

③ 通院介助（居宅介護）

- 通院先での受診等の手続き、移動等の介助を行った。

④ 移動支援（居宅介護）

- 移動時及びそれに伴う外出先において必要な移動の支援を行った。

⑤ 同行援護

- 視覚障害者を対象とした外出支援を行った。

⑥ 個別処遇関係

- ・サービス等利用計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。
- ・個別支援計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービス

の提供を行った。

3. 地域交流・地域貢献活動

(1) 特になし

4. その他の活動

(1) 特になし

施設名	訪問介護支援センター			
	R3年3月 28人	R4年3月 人	自立支援 人	介護保険 人
登録ヘルパー数	R3年3月 11人	R4年3月 14人		
年度中の入退所者	入 所 退 所	人 人		
	休 止 中	人		
利用市町村内訳	田辺市	25人	田辺市	6人
	白浜町	5人	白浜町	1人
	みなべ町	2人	みなべ町	0人
	上富田町	0人	上富田町	0人
	すさみ町	0人	すさみ町	0人
	その他	0人	その他	0人

昨年度実績

田辺市	23人
白浜町	3人
みなべ町	2人
上富田町	0人
すさみ町	0人
その他	0人

【就労継続支援 B 型】

令和 3 年度 陽だまり事業報告（案）

1. 運営状況

令和 3 年度の陽だまりは登録者 26 名でスタートし、年度末の時点での登録者は 29 名であった。

また、利用者数の内訳は退所者が 4 名で新規利用者は 7 名であった。

退所者 4 名の退所理由については、食事中的事故（窒息）で亡くなられた方が 1 名、やおき工房の就労移行にステップアップされた方が 1 名、A 型事業所へ転籍された方が 2 名の計 4 名であった。

新規利用者が 7 名増となった要因は幾つか考えられるが、下記の取り組みを中心に行った。

- i 各相談事業所の相談員との定期情報交換
- ii デイケア（紀南こころの医療センター）との定期会議の実施、情報の共有
- iii 法人内事業所との情報交換
- iv 法人外事業所（A 型事業所等）の情報交換及び退所者の受け入れ（リスタート）
- v 保護者会等への啓発・啓蒙活動
- vi 「癒し」「憩い」「安心」の特色を出したセラピー活動の継続

上記の取り組みを行った結果、A 型事業所（他法人）から 2 名、B 型事業所（法人内）1 名、デイケア（紀南こころの医療センター）2 名、在宅者 2 名の計 7 名と新規契約を交わしたことで、前年度の年間平均利用率 20.5 人から 0.9 人増となり、令和 3 年度の年間平均利用率は 21.4 人であった。

開所時（11 年前）からこれまで目標工賃（月/1 万円以上）を達成することを目指してきたが、その中で急速に高齢化（平均年齢 53 歳以上）が進むと同時に、利用者のニーズも大きく二つに分かれ、就労を希望する方は約 1 年以内に次のステップアップを目指し、逆にゆっくり、安心して過ごしたい方は安定して通所を継続することができた。

また、安定して通所ができた要因は幾つか考えられるが、まずは送迎サービスを拡充させ、送迎を希望する全利用者の自宅前に配車したことによって、ひきこもり気味の利用者や体調面等で不安な方でも一歩外に出易くなるようになった。

次に精神科以外（整形外科、眼科、接骨院等）の受診支援を行うことで、利用者の不安や負担が軽減され、施設利用の満足度が上がり、その満足度の向上と比例して、年間通しの通所率が増加したと考えられる。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 授産活動

i 亀井商店（トイレ掃除用ブラシ包装、掃除用スポンジ包装）

コロナ禍の影響が非常に大きく、高単価（1個5円）の作業であった掃除用スポンジが全く入荷がなくなったので、上記の商材に代わる商品として、トイレ掃除用ブラシの包装作業を年間約11万個の納品ノルマを承諾し、授産収入の大幅減を防ぐことができた。

また、当初はスポンジを中心に行う予定であったが、コロナ禍の影響でスポンジ作業の入荷がなくなり、代わりに提案されたトイレ掃除用ブラシの作業は、商品の元となる資材がととも場所を取ることが判明したが、その作業を受けないと授産作業の大半がストップしてしまうので、急遽執行役員会にレンタルハウス（月9,000円）の設置に関する起案書を提出した。

但し、この起案書に記載している費用については、年度途中の起案であったために、当初予算等では含まれてなく、補正予算という形で最終的に承認され設置した。

ii OFM（電子部品組み立て）

ここ数年は最盛期に比べると半分以下の量で推移してきており、令和3年度は前年度と比較しても大きな減少はなかった。

iii こころの売店（紀南こころの医療センター内売店業務）

入院患者の高齢化に伴い、病棟の規模の縮小などが影響して年々売り上げが減少傾向にあったので、令和3年度は売店のリニューアル（改装）を行い、看護師や外来患者など、これまで購買層でなかった方に対してアプローチを行ったが、売り上げの減少を防ぐことができなかった。

iv 夏季・冬季物販販売活動（そうめん、ちゃんぽん）

毎年、そうめん及びちゃんぽんの売り上げの純利益が25万円程度であったが、令和3年度は授産作業の減収を補うために、物販活動の見直しや販売戦略を立てたことで、大幅に販売数を伸ばし、最終的に物販売り上げの純利益は約50万円であった。

v チョコレート販売（売店ピュア、ビッグU、喫茶ゆうとぴあ）

コロナ禍以来、売り上げは毎年下降線をたどっていたが、令和3年度はチョコレートの販売委託先を現行の三か所から、更に一か所の協力店を増やす事ができたので、売り上げを伸ばすことができた。

vi 農事について

令和3年度は、現場の体制が非常に厳しい状況にあり、そのような状況で、農事（紀南こころの医療センター内の畑作業）を継続することはできないとの判断を下したが、授産担当の職員を中心に、利用者の高齢化や心身の不調者が非常に多い状況にあるので、授産作業を減らして、その分を園芸や農事などの納期の縛りが無い作業に、切り替えを希望するとのことであったので、次年度も農事を継続することを決定した。

② 生活支援活動

(1) 生活支援

i 施設内清掃や給食片付け等の日常生活訓練

施設内の掃除や食器洗い等を日々行うことによって、日常生活の能力を維持すると共に、SSTを用いて、あいさつの大切さの再確認などを行うことや相手を見殺ししない、仲間外れにしないなど、共通の問題を全体で共有し、どのようにすればその問題が解決できるのか話し合いを重ねるなど、個々の能力向上を目指すことを目標に取り組みを行った。

ii 身だしなみや服装の確認

真夏に長袖や真冬に半袖など、被服について混乱する利用者に対して、施設内で服を着替えることなど、季節に合った服を選ぶ訓練を行い、洗濯が苦手な利用者に対しては、実際に施設の設置している洗濯機を使って、苦手なことを克服できるように支援を行った。

iii レクリエーションのバリエーション化

令和3年度もコロナ禍の影響で、外食、ドライブ、旅行など施設外に出掛けることがとんどできない状況となり、日に日に利用者のストレスが溜まる一方であったので、施設内外で安全に行える各クラブ活動（釣り、美容教室、eスポーツ、園芸、グルメ等）を発足させ、利用者が安心して楽しめる一環として、毎月クラブ活動を行った。

iv 余暇活動

コロナの発生状況に考慮しながら、基本的に月一回は土曜日開所を行い、利用者が余暇を楽しめるように、DVD鑑賞や音楽鑑賞（ユーチューブ）を行った。

(2) 健康管理

i 健康診断の実施

はまゆう病院（白浜町）で利用者の健康診断を行った。

ii バイタルチェック

毎年実施している健康診断の中で、10名以上が糖尿病や高血圧と診断されており、その診断された利用者を対象に、毎日血圧測定を行い、数値が異常に高い場合は臨時で受診同行を行い、同時に家族にも連絡を取り情報の共有を図った。

iii ラジオ体操や朝礼後の散歩

利用者の健康管理の一環として、朝礼後に全員でラジオ体操を行い、その後に近隣の新庄公園に散歩に行き健康促進を図った。

但し、真夏の時期は熱中症予防として、また真冬の時期は血圧などの体調に配慮して散歩は中止し、施設内で行える安全ストレッチを行った。

iv 往診治療の実施

登録者 29 名の内の約半数が、過去の事故や加齢等の影響で、変形性膝関節症や椎間板ヘルニアなどの精神疾患以外の疾患が発症している。

但し、経済的な問題や通院が自力で行き辛いなど、様々な問題で本来治療が必要な箇所が放置されていたことによって、痛みが増し通所ができない利用者が複数居たため、紀南こころの医療センター協力のもと、鍼灸医が週一回往診に来て 5 名の利用者が治療を受けた。

③ 個別処遇関係

(1) 個別支援計画の作成

利用者のニーズや課題を具体化して、その計画書に沿って支援を行った。

(2) ケース会議やケア会議の開催、関係機関との連携。

利用者の中に、施設に通所できない状況でありながら、受診支援が必要な状況（白内障の手術等）が何度もあり、その都度受診支援を行ったが、その受診支援について行政（田辺市等）からは給付の算定ができないとの見解であったので、何度かケース会議を行ったが、行政側の見解は変わることはなかったため、この問題については、次年度も継続して協議を行っていく。

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) 事業計画では、令和 3 年度はコロナ禍の中であっても、安全に看護学生（紀南看護学校、熊野高校看護科）が施設実習を行えるように、リモート学習を行う予定であったが、インターネット等の環境が整わずに、当初予定していたリモート学習は中止とした。

- (2) にじのわの相談員より、相談で関わっている方が家庭の事情により、救護施設に入ることになったが、自宅でペット（犬）を飼っており、そのペットの引き取り先が決まらなると施設に入れないとの相談があったので、保護犬（猫）活動を通して繋がりがあった団体（ワンライフ）に連絡を取り、何度か調整を行う中で最終的にそのペットを引き取ってもらうことができた。
- (3) 地域の家族の方より、障がいとは認定されない制度の狭間で困っている子供や学生がたくさんおり、今後はその方達の居場所を作る予定であるが、知識やノウハウが乏しいとの相談があり、できる範囲内での助言や交流を行った。

4. その他の活動

(1) 避難訓練（2回／年）

防災訓練や消防訓練は毎年実施しているが、避難訓練や消防訓練だけでは「油断」が出てきてしまうので、映像を流して可視化することで、防災意識の大切さを再認識できるように訓練を行った。

(2) 施設建物安全点検(1回／月)

施設は二階建てであり、休憩時や給食時に外階段を利用するが雨などで滑りやすくなっていないかなど、事故や怪我が発生しないように定期的に確認を行った。

(3) 職員のメンタルヘルス

毎年秋に実施している希望調書では、職員1名に対して1時間以上の面談を行い、異動希望についてや、業務やメンバー支援についてなど、様々な内容について面談を行ってきたが、それ以外でも各職員とは必要であれば頻繁に面談等を行い、業務過多になっていないかなど、定期的に確認を行った。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	1	お楽しみ弁当	
	6	自治会	
	20	釣り、茶話会	
5	6	お楽しみ弁当	
	11	自治会	
	18	カワのパン祭り	
6	3	お楽しみ弁当	
	8	自治会	
	18	あじさい鑑賞、釣り	
7	13	自治会	
	20	買い物（パピリオンシティ）	

	28	グループレク（ドライブ）、納涼会	
8	11 17	お楽しみ弁当 自治会	
9	2 14 21	お楽しみ弁当 自治会 ピザ祭り、スポーツ	
10	7 12 19	外食 自治会 釣り、バーベキュー	
11	4 9 16	お楽しみ弁当 自治会 モスバーガー、紅葉狩り	
12	2 4 14 28	お楽しみ弁当 アウトドア教室 自治会 忘年会	
1	4 11 18 22 29	初詣 自治会 お楽しみ弁当 利用者健康診断 クラブ活動	闘鶏神社
2	3 8 22	お楽しみ弁当 自治会 ピザ祭り	
3	3 8 31	お楽しみ弁当 自治会、消防訓練、防災訓練 忘年会、送別会	

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【事業内容】	
	令和3年4月	令和4年3月
定員	20人	20人
実利用者数	26人	29人
1日平均利用者数	20.2人	22.6人
職員常勤換算配置数	5人	5人
年間稼働日数	総稼働日数 246日	休日開所日数 8日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）
	受託請負	1,230,000
	内職作業	1,240,568

	自主製品 (チョコレート)	348,800
	物販 (そうめん、ちゃんぽん)	452,390
	その他 (写真代等)	5,870
		計 3,277,628 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 10,000 円	実績 月額 8,499 円

② 利用実績 (月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	20.2	20	21.5	22.4	19	21.9	22	21	21	20	19	22
開所日数	21	18	22	20	21.4	21	23	22.7	22.6	22.4	22.9	22.5

③ 利用者の性別・年齢層 (令和4年3月末時点)

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男			1	5	4	8	18
女		1	2	2	5	1	11
計		1	3	7	9	9	29

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	20名
知的障害	7名
身体障害	名
手帳未取得	名
その他	2名

【就労継続支援 B 型】

令和 3 年度 ハモニティ事業報告（案）

1. 運営状況

令和 3 年度ハモニティは、定員 20 名、登録者 26 名でスタートする。年度中の新規利用者は 2 名、退所者は 1 名であった。退所者 1 名については、A 型事業所への希望があり、サービス移行への支援を行った。登録者数は増えたものの、長期通所が途絶えた利用者が複数おり、1 日の平均利用者数は 19.7 名で昨年を下回る結果となった。

就労支援活動では、自主製品として新たに竹箸の製造販売に取り組み、国文祭わかやま大会の開会式配布用記念品に採用していただき、収益向上につなげることができた。

また、令和 4 年度分場開設に向けた準備も進めていながら、3 月には利用者への内覧会と体験会を開催した。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 請負作業

i 亀井商店（洗浄用スポンジ包装、ボディータオル包装など）

ii OFM（電子部品）

iii 紀伊民報（新聞帯封）

iv 田辺市職員共済会（市民総合センター内売店運営）

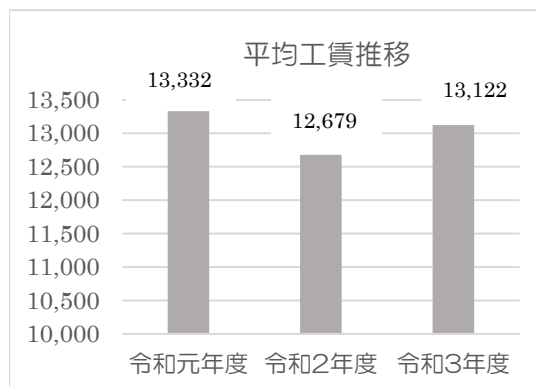
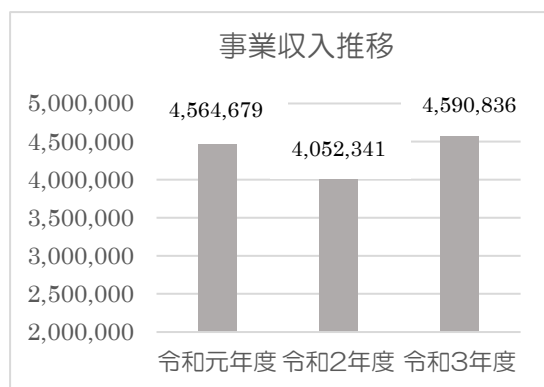
v 紀州うめまさ・福梅本舗（梅商品包装、DM 印刷等）

(2) 古紙・空き缶・古着回収

(3) 印刷物受注販売

(4) 自主製品製造販売（竹箸）

【事業収入及び平均工賃推移】



② 生活支援活動

(1) 日常生活

- i 清掃や食器洗いの習慣的な取り入れ。
- ii 被服や身だしなみについての助言。
- iii レクリエーションの機会を使った買い物支援。
- iv 茶話会やドライブなどの余暇活動。

(2) 健康

- i 健康診断の実施（はまゆう病院）。
- ii ラジオ体操や体重測定
- iii レクリエーションの機会を使った散歩や軽い運動。

③ 個別処遇関係

(1) 個別支援計画の作成

(2) 各種サービスや資源の情報提供と活用のための援助。

(3) ケース会議やケア会議の開催、介護事業所との連絡調整、関係機関との連携。

3. 地域交流・地域貢献活動

(1) 古紙・空き缶・古着回収事業を通して地域の方々から協力をいただいた。

(2) 併設道路脇の除草作業の実施(4回/年)。

4. その他の活動

(1) 避難訓練(2回/年)

(2) 施設建物安全点検(1回/月)

(3) 車両点検(1回/月)

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	8 15	公園散策 買い物	平草原 しまむら
5	13 20	釣り&ボードゲーム 買い物	湊浦漁港 将棋・麻雀 パビシ
6	3 10 17	釣り&ボードゲーム スポレク 買い物	将棋・麻雀 大屋体育館 パビシ
7	1 8 15	食事会 買い物 釣り&ボードゲーム	施設内（そうめん&お寿司） パビシ 将棋・麻雀
8	7 19	バーベキュー 買い物	施設駐車場 パビシ&しまむら
9	16	買い物	パビシ

10	14 21	買い物 1日レク	パピシ アドベンチャーワールド
11	11 18 26	スポレク 紅葉ドライブ 避難訓練	大屋体育館 近露方面 地震火災想定
12	2 9 23	バッティングセンター 買い物ドライブ 忘年会&クリスマス会	いちのせ とれとれ市場 施設内でお弁当とゲーム大会
1	4 6 24 25	初詣 茶話会 利用者健康診断 利用者健康診断	闘鶏神社 ぜんざい はまゆう病院 はまゆう病院
2	3 10 24	図書館展示会 茶話会 避難訓練	たなべる クレープづくり 火災想定
3	10 24	ボードゲーム&運動 ゲームレク	stretch+ クイズ

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労継続支援 B 型】	
定員	令和3年4月 20人	令和4年3月 20人
実利用者数	令和3年4月 26人	令和4年3月 27人
1日平均利用者数	令和3年4月 21.3人	令和4年3月 20.0人
職員常勤換算配置数	令和3年4月 5人	令和4年3月 5人
年間稼働日数	総稼働日数 246日	休日開所日数 7日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	受託請負	1,266,720
	内職作業	1,767,964
	古紙、空き缶、古着	477,590
	印刷	598,304
	自主製品	448,050
	その他(物品販売等)	32,200
		計 4,590,828円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 12,800円	実績 月額 13,122円

② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	21.3	19.5	20.8	20.2	18.7	19.1	20.1	19.7	19.4	18.1	18.7	19.9
開所日数	21	20	22	20	20	20	21	20	20	20	20	22

③ 利用者の性別・年齢層（令和4年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	2	3	5	5	4	19
女	0	0	1	2	3	2	8
計	0	2	4	7	8	6	27

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	18名
知的障害	5名
身体障害	0名
手帳未取得	4名
その他	0名

【障害者就業・生活支援センター事業】

令和3年度 紀南障害者就業・生活支援センター事業報告（案）

1. 運営状況

田辺市及び西牟婁郡、みなべ町を圏域とし、障がい者の方々（難病を含む）の就業と就業に伴う生活に関するニーズに基づき「働き続ける」ことを目標にし、関係機関との連携にて支援を行っています。

今年度は、コロナ禍の中でありながらも、リモートや人数制限、感染予防対策、開催日の選定などを考えながら事業を進めてきました。

実施事業では、精神科医を講師に招き「精神障害者の多様な働き方」では、企業5社、A型サービス事業所、就労移行事業所、B型サービス事業所からの参加があり、精神科医が考える働きながらの治療視点を学ぶことができました。在職者の交流活動支援では、ワーカークラブの中で、グループワークを初めて試み、意見の出しやすいテーマとして「通勤時や職場でヒヤッとしたこと」の意見交換会を行いました。各グループの進行については職員が行いましたが、少人数グループにすることで発言する機会を持つことができました。もう1つの研修では、「地震と津波に備えて」で講師を招き研修を行いました。映像を見ましたが、逆に恐怖感を持った方もいました。数日後に偶然強めの地震がありましたが、研修で学んだことを思い出し、行動に移すことができた人は2～3人程度でした。

利用者相談や就労支援の状況は以下の内容になります。

①新規登録者は減少状態になっています。圏域でのA型サービス事業所やそのサービスを希望する利用者の増加、相談機関への来所者もA型サービス希望が多数を占めている情報もありました。また就労移行事業所や利用者の減少、支援学校卒業生も就労移行事業所である一定期間訓練を受け一般就労を目指そうとする意向が保護者の中でも減少していること、支援を受けながらの一般就労を希望していない卒業生なども出てきました。

②他府県への移住相談者2名の内1名はコロナ感染状況と基礎疾患で見送りとなり、もう1名は移住先の支援機関とリモートを数回行いました。他府県から圏域に移住してくる相談者1名の方は、圏域で就労をしており中途障害となられた方で、復職に向けてリモートを行い、次年度に移住できるようにしています。移住先の支援機関とリモート面談を行うことにより、移住後のスムーズな支援を受けられる環境を整えることができました。

④ 精神的に不安定になる方も見られ、知的障害を伴う方で、精神疾患症状が一時的に発症してしまったケースについては家族、企業と情報共有しながら対応をしました。高齢になるにつれ、健康診断結果で再検査になり、それに合わせて更年期症状からの鬱状態になってしまう方もいました。一旦休職し、医療機関への同行を行いながら、病状の整理と対応について支援を行ってきました。

④一般高校卒業後、就職するも早期退職してしまった方、職場での環境に馴染めず欠勤

が目立ってきた方への相談支援がありました。手帳の取得から始まり、職業評価をもって課題整理や特性把握に対応してきました。また、就職している企業に訪問し、ジョブコーチ支援での介入、障害開示や対応アドバイスを行い、環境整理と同僚への理解を得ることができました。

⑤ 定期的な面談をここ数年行っていますが、発達障害を持たれた方については、状況の整理、認識の修正を行うなど、定期的な面談が有効で、その対象となってくる方は更に増えました。

⑥生活面での支援も多くなっており、交友関係トラブルで離職を余儀なくされた方、金銭要求をされた方、生活面の乱れからくる仕事への影響などが見られました。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 就労に向けた準備支援（職業準備訓練・職場実習の斡旋）【随時】

i 体験職場実習、企業内授産、インターンシップ事業活用時の同行支援

ii 和歌山障害者職業センターとの連携（月1回・職業評価、拡大ケース会議）

【職業評価17名、拡大ケース会議15名】

(2) 求職支援活動【随時】

i ハローワークへの同行等による求人検索

ii 地域新聞等広告紙による求人への相談と対応

iii 独自の企業開拓

iv 他府県への移住、転職希望者への移住先支援機関との調整（リモート含）

【6回/人、2回/人】

(3) 職場定着支援【随時】

i ジョブコーチによる職場定着支援（訪問型職場適応援助者）【12件】

ii 就職後の作業支援（指導）、就労後数年経過した企業への不定期巡回訪問【1,599件】

iii 職場、生活面での相談対応【5,390件】

(4) 障害者活躍推進計画の作成のため国などの機関が設置・開催する検討会等への参画
【依頼なし】

(5) 地域の就労支援力の底上げのためのネットワーク形成・セミナー等の実施

i 関係機関との連絡調整・会議

運営協議会の開催【3/2】

特別支援学校連絡会【月1回】

ハローワークとの連絡会議【7/29、3/10】

定着支援事業所との連携【4事業所、各事業所毎月1回、リモート対応時あり】

西牟婁圏域自立支援協議会就労部会への参加【6/24、8/4、11/12】

- 圏域内就労移行事業所 3ヶ所との連携会議【3事業所、各事業所毎月1回】
- ii 他の就労支援機関等へのノウハウ提供を図るための研修会などの開催
 - 各研修会学習会への職員派遣【不参加】
 - 移行事業所職員・当事者への作業基礎訓練実施（JST トレーニング）【未実施】
- iii 中小企業を中心とした雇用管理の課題を共有、相談するための企業担当者等との交流会、相談会の開催【随時、11/3（参加企業5社）】
- iv 医療機関等の専門的分野の有識者を講師に招き、地域の支援機関企業担当者などを対象とした研修会を開催【11/3】
- v センター同士のノウハウを共有するため、同じ地域事情の他地域のセンターとの研修、交流会を開催【10/22、1/17】
- (6) 職場定着促進のための在職者の交流活動の実施【7回、内2回研修】
- (7) ピアサポート活動の実施【3/24】
- (8) 和歌山県発達障害者支援センターとの連携（アドバイザー事業委託）

【8/20、11/19、3/11】
- (9) 就業支援、職場定着支援担当者の会議・研修等
 - i 和歌山県障害者就業・生活支援センターNW 会議【7/13、11/5、3/23】
 - ii 全国就業支援 NW 定例研究会【8/28、9/17、2/11】
 - iii 近畿ブロック経験交流会【11/24】
 - iv 主任職場定着支援担当者の経験交流会【1/26】
- ② 生活支援活動
 - (1) 生活習慣の形成、健康管理、金銭管理等の日常生活の自己管理に関する助言【随時】
 - i 医療同行、服薬管理についての助言、金銭管理
 - (2) 住居、年金、余暇活動など地域生活、社会設計に関する助言
 - i 行政手続き補助及び代行【随時】
 - ii ワーカーズクラブの活動補助【7回、内2回研修】
 - (3) 関係機関との連絡調整・会議
 - i 全国就業支援 NW による生活支援ワーカー研修会【不参加】
- ③ 個別処遇関係
 - (1) ジョブコーチ支援の実施【訪問型職場適応援助者対応 12件】
 - (2) A型事業利用者の一般就職相談についての連携会議【個別ケース対応：4件】
 - (3) B型事業所利用者の一般就職相談についての連携会議【個別ケース対応：4件】
 - (4) 個別ケースにより家庭訪問、グループホーム訪問の実施【随時】
 - (5) 定期的な面談が必要な利用者への対応（リモート面談希望者にはリモート対応）

【7件、リモート希望なし】

④余暇活動支援

(1) 職場定着促進のための在職者の交流活動支援【7回、内2回研修】

i ワーカーズクラブ活動補助

3. 地域交流・地域貢献活動

(1) 地域交流活動

(2) 地域貢献（公益）活動

4. その他の活動

(1) 障害者就業・生活支援センター事業について学習会【6/25】

(2) 職場実習支援制度や障害者雇用支援制度の学習会【6/25、情報提供】

(3) 就職に向けてのプロセスの学習会【6/25、8/26】

5. 行事報告

月	日	就労	生活	在職者交流活動
4	6			定例会議（総会）
5				
6	1			定例会議
7	6 13 29	在職者の交流活動 県下7センター会議 ハローワーク連絡会	在職者の交流活動 県下7センター会議 ハローワーク連絡会	研修『グループワーク』
8	3 20 28	発達障害者支援研修 全国NW定例研究会	発達障害者支援研修 全国NW定例研究会	定例会議
9	17	全国NW（総会）	全国NW（総会）	
10	5 22	県下7センター研修会	県下7センター研修会	定例会議
11	2 3 5 19 24	在職者の交流活動 講師を招いての研修会 県下7センター会議 発達障害者支援研修 近畿ブロック交流会	在職者の交流活動 講師を招いての研修会 県下7センター会議 発達障害者支援研修	研修『地震、津波に備えるため』
12	7			定例会議
1	17 26	県下7センター研修会 主任職場定着支援担当者 交流会	県下7センター研修会	
2	11	全国NW定例研究会	全国NW定例研究会	
3	2 10 11 23 24	運営協議会 ハローワーク連絡会 発達障害者支援研修 県下7センター会議 ピアサポート	運営協議会 ハローワーク連絡会 発達障害者支援研修 県下7センター会議	ピアサポート

6. 数値実績

① 利用者の性別・年齢層（令和4年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	12	73	35	29	19	6	174
女	3	35	24	19	12	1	94
計	15	108	59	48	31	7	268

② 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	99名
知的障害	153名
身体障害	15名
手帳未取得	0名
その他	1名

③ 実績数値

	身体	知的	精神	その他	合計
相談・支援件数	95	2,861	2,128	18	5,102
職場実習件数	1	12	10	1	24
就職者数	0	13	9	1	23
職場訪問による定着支援	0	1,032	566	1	1,599

就職率（一般企業への就職者数／新規求職者数） 59.0%

定着率（前年度就職者の6ヶ月後、1年後の在職率）6ヶ月後 93.1%、1年後 89.7%

【地域活動支援センターⅢ型】

令和3年度 紀南地域活動支援センター事業報告（案）

1. 運営状況

例年通り田辺市より事業を受託し、施設通所になじまない方々の場所として活動を行ってきた。昨年、納期のシビアな内職作業に負担を感じ、日々作業に追われない活動に変更した結果、サロンを中心に利用する方が増えてきた。一部の希望者については紀南障害者就業・生活支援センターへの登録や就労のための職場実習などの就職活動もサポートしてきた。サロンについては一部屋で区切りもないため、反りの合わない利用者同士間では、一方の方が距離を取ったり、利用を中断したりということもあった。このほか利用登録者の増加、多様化による利用者間のトラブルも増えている。

コロナ禍による、外出の制限等もありできる範囲での活動と体力維持（増進）を図りレクリエーションについてはスポーツを主に行ってきた。

2. 事業報告

① 就労支援活動

内職作業としては缶バッチ制作・ラベルシール印刷などを行う。梅製品の箱詰めは注文はなし。コロナ禍により各イベントの中止などもあり、缶バッチの受注は激減となった。希望者については就業センター実習への参加を勧めた。

② 生活支援活動

(1) レクリエーション活動を通じてスポーツ、調理実習、外出活動を行ってきた。

③ 個別処遇関係

(1) 受診同行、生活相談については当事者ニーズに伴い対応。

(2) 他のサービス事業所への移行者はなし。

3. 地域交流・地域貢献活動

(1) 特になし

4. その他の活動

(1) 一部利用者のワークス活動参加。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4		スポーツレクリエーション (7回)	
5		スポーツレクリエーション (9回)	
6	22	スポーツレクリエーション (12回) 調理実習 (白玉ソフトぜんざい)	
7	26	スポーツレクリエーション (7回) フラワーアレンジメント	
8	6	スポーツレクリエーション (2回) 絵画鑑賞 (田辺市立美術館)	
9		スポーツレクリエーション (1回)	
10		スポーツレクリエーション (11回)	
11		スポーツレクリエーション (11回)	
12	3 7 8 20	スポーツレクリエーション (4回) 県展鑑賞 (上富田文化会館) 餅つき 絵画鑑賞 (田辺市立美術館) 絵画鑑賞 (紀南文化会館)	
1		スポーツレクリエーション (7回)	
2		スポーツレクリエーション (7回)	
3	22	スポーツレクリエーション (10回) いちご狩り	

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【地域活動支援センターⅢ型】	
	令和3年4月	令和4年3月
定員	10人	10人
実利用者数	14人	19(24)人
1日平均利用者数	7.6人	9.4人
職員常勤換算配置数	2人	2人
年間稼働日数	総稼働日数 239日	休日開所日数 0日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	内職関係	16,258
	職場実習	88,999

		計 105,257円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 円	実績 月額 1,096円

② 利用実績 (月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	7.6	7.7	7.0	7.8	8.6	7.0	9.2	9.4	9.0	8.4	8.2	9.4
開所日数	21	18	22	20	18	20	21	20	20	19	18	22

④ 利用者の性別・年齢層 (令和4年3月末時点)

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	1	7	2	0	2	1	13
女	1	4	2	3	1	0	11
計	2	11	4	3	3	1	24

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	8名
知的障害	16名
身体障害	0名
手帳未取得	0名
その他	0名

【共同生活援助（外部サービス利用型）】

令和3年度 サンヒルズ事業報告（案）

1. 運営状況

サンヒルズ（主）・クローバー（従）・オレンジ（従）・ユースセブン（従）・アップル（従）・レモン（従）・みなべ鹿島ホーム（従）・浜市社宅（従）

サンヒルズを主とし定員30名、職員配置4：1での支援を行ってきた。

① コロナ禍での利用者の動向

法人からの通達を踏まえ、職員・利用者ともに感染予防に努めるよう指導を行ってきた。ほとんどの利用者はコロナ禍での生活をうまく過ごせていた。就労先企業もコロナの影響はあるものの、勤務時間短縮や欠勤要請もなくある程度の収入を確保することができていた。

② みなべ鹿島ホームの移転

旧物件については、4月当初より売却予定者の見学などがあり、移転を早急に行っていく必要があったため、近隣不動産の仲介により8月に移転を行う。旧物件については近所と一定の距離があり騒音・ゴミ処理などの問題は無かったが、移転先では隣接する民家があるため前記のような問題が数回生じ、現在も継続中である。

③ 入所・退所者の内容

入所者1名。他法人GH利用であったが同居者との不和による転居。

退所者1名。自主退所1名。（「なないろ」への転居）

④ その他

高齢化問題・利用者の健康問題・知的障害者の生活スキルの問題は継続され増加傾向である。高血圧・糖尿病患者、またその予備軍への食事・運動等の助言。緑内障患者の医療送迎。成人病への不安相談などが増加傾向。また、1名の方は腹痛を訴え腸捻転の診断にて入院となった。1か月程度で退院となったが、その後腸閉塞で再入院・退院を繰り返し、3月末に再度入院し敗血症、高熱で現在も入院加療中。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 世話人の利用者実習先・就職先への訪問支援。

② 生活支援活動

(1) やおき福祉会活動日の朝食・夕食提供。

(2) 生活指導（清掃・服薬・身だしなみ・休日の食事・買い物 他）

(3) 医療同行（精神科通院同行、その他の医療機関への同行）

(4) 悪天候時の出勤支援は希望者・対象者がいなかった。

(5) 世話人の研修については伝達研修として虐待防止を開催。

③ 個別処遇関係

(1) 個別支援計画等の作成

(2) 就職相談、定着相談、金銭管理、個別の悩み相談 他

3. 地域交流・地域貢献活動

(1) 特になし（各ホームで町内会加入）

4. その他の活動

5. 行事報告

今年度も、コロナ禍の影響により予定していた行事は未実施。

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【共同生活援助（外部サービス利用型）】	
定員	令和3年4月 30人	令和4年3月 30人
実利用者数	令和3年4月 28人	令和4年3月 28人
1日平均利用者数	令和3年4月 27.6人	令和4年3月 27.2人
職員常勤換算配置数	令和3年4月 7.6人	令和4年3月 7.6人
年間稼働日数	総稼働日数 365日	休日開所日数 日

② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	27.6	26.4	27.1	27.2	26.8	27.4	26.8	25.9	26.4	26.7	27.1	27.2
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31

③ 利用者の性別・年齢層（令和4年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	8	3	3	6	3	23
女	0	3	0	2	0	0	5
計	0	11	3	5	6	3	28

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	10名
知的障害	18名
身体障害	0名
手帳未取得	0名
その他	0名

【就労継続支援 B 型】

令和 3 年度 古道ヶ丘 事業報告（案）

1. 運営状況

保養所事業

・昨年同様コロナ対策を取りながらの営業となった。8 月にはコロナが蔓延し緊急事態宣言により宿泊施設自体も 8 月 25 日から 9 月 30 日まで営業を停止した。

二年連続のこの状況下での保養所運営は厳しいものとなっており、以前から施設の老朽化の問題もあり、このまま指定管理を継続することが難しくなっている。今年度で指定管理更新（3 年毎）の最終年度となるため、田辺市と協議しながら引き続き、指定管理を更新するかが課題となっている。

福祉事業

・昨年度も介護事業へ移行した利用者が 2 名、現在の利用者数が 21 名となり、利用者が減少傾向である。高齢化も進んでおり、野外作業や宿泊管理事業にかかわれる利用者が減少し、作業自体の見直しが必要となってきた。職員数も現在、管理者、サビ管を含めて 4 名なので利用者支援が難しい場面も出てきている。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 田辺市委託事業

i バンガロー清掃（宿泊前後のセット及び清掃を行った）

お客さんの数が少なく清掃の数も少なかった。

ii 施設周辺維持管理（施設備品修繕、草刈りなど）

iii ブルーベリー収穫（栽培、収穫）

鳥や獣害によりほとんど収穫できなかった。

(2) 授産事業

i 去年度に引き続き施設内周辺以外の草刈を行った。

県からの草刈り作業は今回なかったが、来年度はお願いしたいとの打診もあった。

ii 内職作業 かげろうの箱折りと新しい内職（ダイソー）作業を増やした。

かげろう内職の注文が少なかった。原因：コロナの影響で観光客が減ったため。

ダイソーの内職を中心に作業を行った。

② 生活支援活動

(1)

i 年 1 回の健康診断を実施した。

ii 消防計画に基づき年 2 回の防災訓練を実施した。

iii レクリエーションを企画したがなかなか開催するのが難しかった。

③ 個別処遇関係

(1)

i 個別アセスメントを行い支援計画に基づき支援を行った。

ii 高齢化にともない足の不自由な利用者が増えてきている。以前と同じメニューの作業にも参加しにくくなってきている。

iii SST（社会生活技能訓練）を取り入れ、社会生活の質向上を目指した。

3. 地域交流・地域貢献活動

(1)

i 中辺路小学校 4 年生のみなさんが来所し、コロナ対策をとりながら施設見学、歌・楽器の演奏を聞かせてくれた。

ii 毎年ボランティアで施設作業に参加してくれている中辺路中学校の生徒の皆さんは昨年に引き続きコロナの影響のため参加なしでした。

iii 町民運動会やバザーなども軒並み中止となり参加することができなかった。

4. その他の活動

(1)

i コロナ対策マニュアルを活用し利用者・職員の安全確保に努めた。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見	
5月		
6月	防災訓練	
7月		
8月		
9月		
10月	おつかれさま会	
11月	班別レク・アドベンチャーワールド	
12月	クリスマス会	
1月		
2月	防災訓練	
3月		

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【事業内容】	
定員	令和3年4月 30人	令和4年3月 30人
実利用者数	令和3年4月 23人	令和4年3月 21人
1日平均利用者数	令和3年4月 20人	令和4年3月 19人
職員常勤換算配置数	令和3年4月 5人	令和4年3月 5人
年間稼働日数	総稼働日数 244日	休日開所日数 4日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	保養所委託事業関係	452,053
	喫茶	693,366
	内職、古紙・アルミ缶など	569,980
		計 1,715,399円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 10,000円	実績 月額 8,334円

② 利用実績 (月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	20.4	19.7	21.1	20.5	18.2	17.8	17.8	18.8	19.4	19	19.6	19.5
開所日数	21	20	21	22	23	19	22	21	20	19	19	21

③ 利用者の性別・年齢層 (令和4年3月末時点)

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	2	1	2	3	1	9
女	0	0	3	1	5	3	12
計	0	2	4	3	8	4	21

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	9名
知的障害	9名
身体障害	2名
手帳未取得	1名
その他	0名

【就労継続支援 B 型】

令和 3 年度 本宮くまのこ作業所事業報告（案）

1. 運営状況

昨年度より職員体制の変更（主任が交代）があった。新職員が本宮地域に土地勘がないため作業・利用者についても初めての要素が多く苦戦することもあり、平均利用者が減少傾向となった。職員体制についても昨年度末で職員 1 名が退職となり、今年度は職員 1 名減で古道ヶ丘の職員がフォローに入りながら運営を行った。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 野外清掃活動

ゲストハウス清掃作業がコロナの影響で実施できなかったが、他の 3 か所については前年同様実施できた。

(2) 古紙回収・アルミ缶回収

週 1 回本宮の回収拠点 8 ヶ所のアルミ缶回収を実施。

熊野鼓動・芝サッシ店・本宮社協より古紙とアルミ缶の提供。
地域住民による持ち込み。

(3) 自販機事業

本宮行政局と本宮社協の 2 ヶ所の自動販売機での販売・補充・点検。

(4) 内職作業

i 箱折り作業

古道ヶ丘で実施している「かげろう」の箱折り作業の一部を請け負っている。
コロナの影響により前年度より減収。

ii 海外向け商品の梱包作業

海外向け商品のバーコード貼付け作業や梱包作業を請け負っている。
作業の量や商品の種類が徐々に増えてきている。

iii 備長炭のパッキング作業

本宮町内の製炭業者より浄水用備長炭や燃料用備長炭のパッキング作業を請け負っている。

iv マコモ茶の裁断作業

本宮町内のマコモ栽培農家よりマコモ茶の裁断作業を請け負っている。

(5) 自主製品（アクリルたわし）

本宮町内の3ヶ所の店舗で販売。コロナの影響で観光客が減少しており販売数も減少。

② 生活支援活動

- (1) 年1回の健康診断の実施。
- (2) 本宮町内での週3回の買い物支援の実施。新宮市内へ月1回の買い物支援の実施。
- (3) 消防計画に基づき年2回の防災訓練実施。
- (4) 季節ごとのレクリエーションを企画するもなかなか開催が難しかった。
- (5) 糖尿病や肥満の方に対応した給食を提供した。

③ 個別処遇関係

- (1) 個別アセスメントを行い、個別支援計画に基づき支援を実施。
- (2) 体重コントロールが困難な利用者向けに作業前のウォーキングを実施。
- (3) 精神的に調子を崩した利用者に対して定期的な家庭訪問を実施。
- (4) 諸事情により利用時間がずれる利用者に対しての送迎時間や利用時間の調整。
- (5) 月1回休日開所を実施して、調理実習等の生活訓練や社会性向上を目的とした取り組みを行った。古道ヶ丘と連携した。
- (6) 年に1回、地域在住者の家庭訪問を実施して、家族との連携を図った。

。

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) 本宮女性会との本宮大社近くの花壇の花植え活動（年2回）
- (2) 本宮ゆる体操部会、コロナで開催中止が続いたが現在再開している。

4. その他の活動

- (1) 本宮地域に事業所活動を周知するため、月1回「くまのこだより」を発行。
- (2) 本宮地区のケア会議の参加。（本宮町内の他サービス事業所との意見交換等）

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	2	花見	
5	21	花植え	本宮女性会と合同で実施
7	21	ボウリングレク	

8	25	BBQ レク	作業所敷地内で実施
11	20	ソフトボール紅白戦	古道ヶ丘と実施
12	25	クリスマス会	作業所内で実施
1	11	初詣	

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労継続支援 B 型】	
定員	令和3年4月 10人	令和4年3月 10人
実利用者数	令和3年4月 12人	令和4年3月 12人
1日平均利用者数	令和3年4月 8.9人	令和4年3月 7.6人
職員常勤換算配置数	令和3年4月 2.87人	令和4年3月 2.87人
年間稼働日数	総稼働日数 247日	休日開所日数 10日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	自販機	470,080円
	受託作業(清掃)	295,000円
	内職作業(箱折り)	139,840円
	内職作業(箱折り以外)	522,563円
	アルミ缶・古紙回収	101,720円
	自主製品他	61,608円
	計	1,590,811円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 7,200円	実績 月額 6,348円

② 利用実績(月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	8.9	7.8	8.9	8.3	8.2	7.9	8.4	8.3	7.1	7	7.3	7.6
開所日数	22	22	22	22	19	21	22	21	22	21	20	23

③ 利用者の性別・年齢層（令和4年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	2	0	1	0	2	5
女	0	0	2	1	2	2	7
計	0	2	2	2	2	4	12

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	6名
知的障害	6名
身体障害	0名
手帳未取得	0名
その他	0名

【共同生活援助】

令和3年度 こどうの家・第2こどうの家事業報告（案）

1. 運営状況

現在の空き状況は女性ホーム2名、男性ホーム1名となっている。コロナの状況を見ながら新規利用者の調整も行っており、女性2名が体験利用中で入所に向けて調整中となっている。

2. 事業報告

① 生活支援活動

(1)

- i 給食サービスの実施 朝食：火水金土日曜日 夕食：月火木金土曜日
株）南陽食品との契約を継続し、食事提供を行った。
- ii 消防計画に基づき年2回の防災訓練を実施した。
- iii 掃除や洗濯など日常生活能力を身に付けるための家事援助や調理実習の実施
- iv 病院への同行受診の実施を行った。
- v 紀南こころの医療センターやその他の病院の受診の際、山間部であるため公共交通機関の不便さを鑑み、同行し場合によっては診察の補助を行った。
- vi 自治会の支援として毎月定期的の実施し、ホームでの生活について利用者同士で話し合うための支援を行った。

③ 個別処遇関係

(1)

- i 日々の生活費の使い方などの助言や管理支援を行った。
- ii 服薬についての助言や管理の支援を行った。
- iii 個別支援計画の作成に努め利用者個々に合った支援と生活の質の向上を目指した。
- iv SST（社会生活技能訓練）を取り入れ、社会生活技能のスキルアップを目指した。
- v 家族との連携を深め、協力関係を構築に努めた。

3. 地域交流・地域貢献活動

(1)

- i 町内会に加入している。

4. その他の活動

(1)

- i コロナ対策マニュアルを活用し利用者・職員の安全確保に努めた。
- ii にじのわ、サポートセンターゆう等各相談機関と連携を図った。
- iii 利用を希望する方の体験入所の実施を行った。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月	防災訓練・外食（ガスト）・ドライブ（奇絶峡）	
12月		
1月	調理実習	
2月	茶話会	
3月	防災訓練、防災学習・茶話会	

6. 数値実績

① 施設概要

ホーム名	こどうの家		第2こどうの家	
	3年4月	4年3月	3年4月	4年3月
定員	5人	5人	6人	6人
実利用者数	3人	4人	4人	4人
職員常勤換算配置数	3.79人	3.79人	3.79人	3.79人
年度中の入退所	入 所 退 所	1人 0人	入 所 退 所	0人 0人
利用市町村内訳	田辺市	3人	田辺市	1人
	白浜町	1人	白浜町	1人
	新宮市	人	新宮市	1人
	その他	人	その他	1人

② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	7.0	7.7	7.8	7.8	7.6	7.8	7.9	7.9	7.9	7.8	8.0	7.9
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31

③ 利用者の性別・年齢層（令和4年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	1	0	0	3	0	4
女	0	0	1	1	2	0	4
計	0	1	1	1	5	0	8

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	5名
知的障害	3名
身体障害	0名
手帳未取得	0名
その他	0名

【就労継続 B 型】

令和 3 年度 龍の里作業所事業報告（案）

1. 運営状況

令和 3 年度は授産活動において大きな変化は見られなかったが、予定していた行事やレクリエーションなどは昨年同様ほぼ中止となり、感染状況の動向を探りながら独自に活動を実施するに至った。11 月より職員が一名減となり、体制が不十分な状況で年度を乗り切った。12 月に自宅での誤嚥事故により一名の利用者が亡くなられ、緊急対応が難しい高齢の家族との地域生活での限界を感じるがあった。3 月には 2 年ぶりの新規利用者を迎えたが、今後自立生活を目指す利用者との入れ替わりを予想すると、運営の安定化には積極的なアウトリーチが課題と思われる。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 内職作業

- i 亀井商店…作業は切れずにあるが、複雑な工程の作業もあり、従事できる利用者が限られてしまうものがあった。
- ii 龍神マッシュ…しいたけ袋のシール貼りは単純で効率の良い作業で安心して取り組むことができた。
- iii 渡辺ウッドライフ…前半は組み立て家具の説明書入れ作業やねじ袋入れ作業があったが、下半期は仕事が減少した。

(2) 受託作業…龍神マッシュの実習、花いっぱい運動の書類作成、苗運搬などの作業を行い、大きな変化はなかった。

(3) 自主製品…「よもぎの葉」はほぼ完売し、需要に対して供給が追い付かなかった。

焼き菓子では地元の道の駅などでの販売を行った。

(4) 農作業…自然薯、落花生、サツマイモを生産し、地元を中心に販売を行った。

(5) 販売…そうめん、うどん、チョコレートなどの販売数に大きな変化はなかったが、今年はセルフセンターの紹介でわっくる商品（地元産の商品）の販売を行うも単価の問題もあり、収益を見込むことが難しかった。

(6) リサイクル…アルミ缶回収は地元の協力も増えつつあり、定期的な業者の回収により利用者や職員の負担が少なかった。古着回収は単価も安く、収益には結びつかなかった。

② 生活支援活動

(1) 健康目標においては 40 歳以上の利用者には詳細な検査項目がある田辺市の特定健診とがん検診、39 歳以下の利用者にはまゆう病院での検診を実施した。日常的にはウォ

- ーキングなどの運動を習慣化させ、肥満やサルコペニア(筋力減少症)の対策を行った。
- (2) 日常的な生活課題や金銭管理などの相談は社会福祉協議会と連携し、権利擁護や訪問支援など制度を活用し、支援を行った。
- (3) 感染症予防のため施設内の消毒、ソーシャルディスタンスの確保を行い、黙食を徹底した。

③ 個別処遇関係

- (1) 個別支援計画とサービス等利用計画に基づき、主治医や家族、関係機関と連携しながら個々の課題に基づいた利用者への支援を実施した。
- (2) 就労希望のある利用者に対し、就業・生活支援センターを通じてハローワーク登録、職業評価を実施した。

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) 例年実施されている地域交流イベントは今回もすべて中止となり、授産科目の「便利屋」での高齢者宅の請負作業や「花いっぱい運動」による地域住民団体との協働事業による交流活動を実施した。

4. その他の活動

- (1) 避難訓練（年二回）を実施。
- (2) 健康診断の実施。（龍神村中央診療所、大嶋医院、はまゆう病院）

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
5	1	お楽しみ弁当	
	21	木工教室(スツール作り)	
6	11	買い物レク(パピリオンシティ)	
	16	健康診断(40歳以上)	
7	16	買い物レク(しまむら、パピリオンシティ)	
8	11	大掃除	
10	15	避難訓練	
11	12	買い物、ランチレク(しまむら、トマト&オニオン、パピリオンシティ)	
		インフルエンザ予防接種	
12	10	日帰りバス旅行(和歌山マリーナシティ)	
	28	大掃除	
1	7	新年会(施設内)	

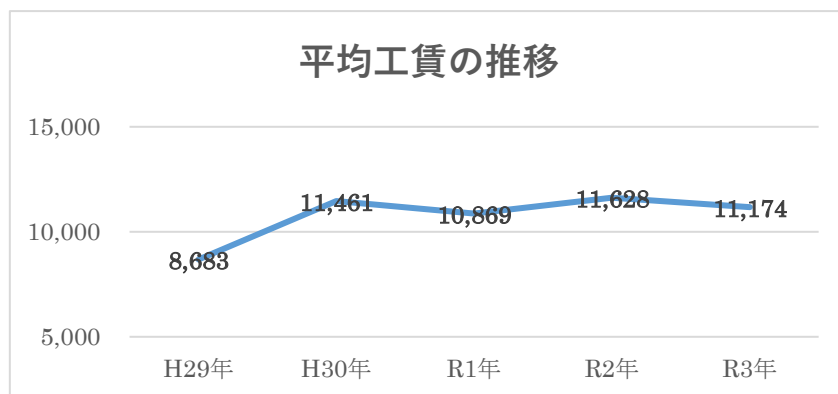
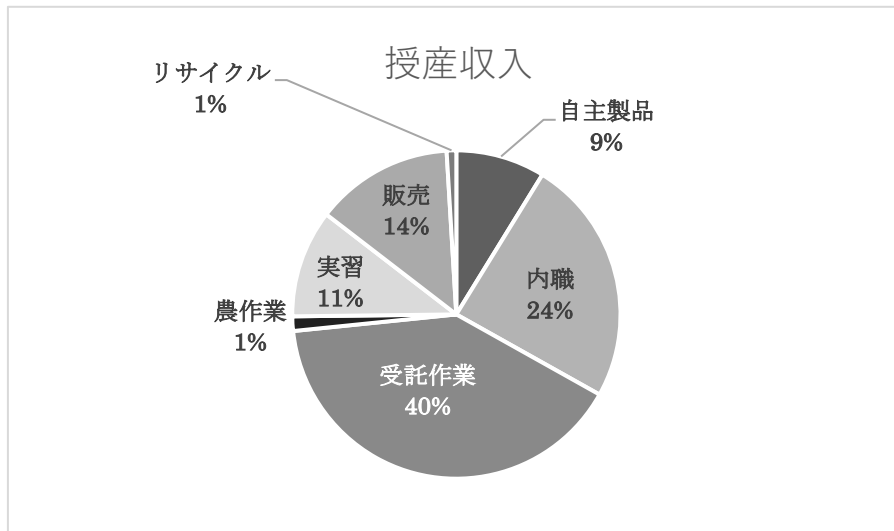
3	2	健康診断(39歳以下)、	
	15	緊急通報訓練	
	18	避難訓練	
	25	買い物レク(パビリオンシティ)	

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【事業内容】	
	令和3年4月	令和4年3月
定員	20人	20人
利用者数	17人	17人
1日平均利用者数	15.3人	15.1人
職員常勤換算配置数	5.4人	4.4人
年間稼働日数	総稼働日数 240日	休日開所日数 4日

授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
		自主製品
	内職作業	888,569
	受託作業	1,470,185
	農作業	52,268
	実習	388,000
	販売	496,518
	リサイクル	34,838
	合計	3,651,015
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 12,030円	実績 月額 11,174円

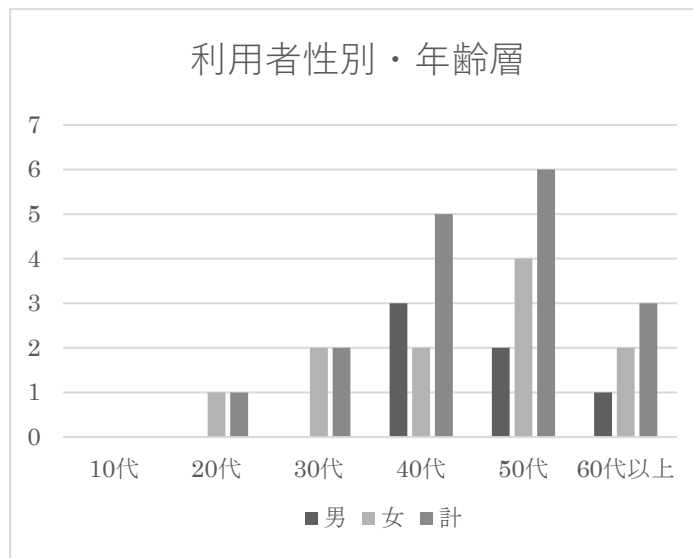


② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	15.3	15.9	16.1	15.1	14.9	15.5	14.5	15.1	14.6	14.5	14.8	15.1
開所日数	21	18	22	21	19	20	21	20	19	19	18	22

③ 利用者の性別・年齢層（令和4年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	0	0	3	2	1	6
女	0	1	2	2	4	2	11
計	0	1	2	5	6	3	17



④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	8名
知的障害	10名(3)
身体障害	0名
手帳未取得	2名
その他	0名

【地域活動支援センターⅢ型】

令和3年度 かしのき事業報告（案）

1. 運営状況

上富田町内在住で障害を持たれながらも福祉サービスを受けていない方や、日中サービスの利用に至らない方々を主として、自宅以外の場所の提供を目標に活動を行ってきた。

行政・相談事業所より見学等の相談はあったが実際には見学に至らない方々が多い状況である。利用開始しても数か月に1度の来所の方、数日の利用で他事業所へ移行された方など、安定した通所ができている方は少数である。昨年度一般就労を中断し、他施設利用までの期間を利用された方については現在B型事業所へ通所し、休日には来所を継続されている。

1名の利用者が1年間継続通所を経て、B型施設利用希望により関係機関との調整会議を行ったが結局は金銭的な問題から当施設の利用を継続することになっている。

平日はサロン利用、レクリエーションを中心に活動し、内容はその日来所された方々との話し合いで決めていった。その活動はフェイスブック等で広報を継続している。

2. 事業報告

① 就労支援活動

内職関係（レトルトカレー箱入れ）

施設外（梅ひらい、引越の手伝い）

② 生活支援活動

（1）サロン・レクリエーション活動

憩いを主としての活動のため、来所者には強要せず「やりたいこと」をやってもらうこととしている。サロンでDVD鑑賞・読書、調理実習、ボードゲーム、TVゲーム、麻雀などを行い、外出時は釣り・買い物・観光地周り・スポーツを行ってきた。

（2）給食活動

令和2年度は水曜のみであったが、通所者の希望により毎日提供することになった。呼称を「給食」から「かしのきlunch」としている。

③ 個別処遇関係

希望者に対し、可能な支援として以下を行った。

（1）受診同行（送迎含む）

（2）金銭管理

3. 地域交流・地域貢献活動

(1) 特になし

4. その他の活動

(1) 特になし

5. 行事報告

当初予定していた行事がコロナのため未実施となる。

来所者希望にて、ほぼ毎日レクリエーション活動を行ってきた。

月	日	行事等	備考
4	19	引越手伝い	
5	31	ドライブ	すさみ町
6	18	スポーツレク	市ノ瀬体育館
7		レトルトカレー箱詰	
8		BBQ	
9			
10	23	シーカヤック	ボランティア事業
11	25	ドライブ	奇絶峡
12	4 8	アウトドア体験 クリスマス会	ボランティア事業
1	6	買い物レク	
2	14	調理実習	チョコレート
3	8	調理実習	ドーナツ

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【地域活動支援センターⅢ型】	
	令和3年4月	令和4年3月
定員	10人	10人
実利用者数	3人	5人
1日平均利用者数	2.6人	4.4人
職員常勤換算配置数	1.75人	1.75人
年間稼働日数	総稼働日数 241日	休日開所日数 2日

	241 日	2 日
授産科目及び授産収入	科目	収入 (円)
	請負作業	15,800円
	内職作業	35,500円
		計 51,300円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 円	実績 月額 855円

② 利用実績 (月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	2.6	2.8	3.6	3.1	3.3	3.5	3.5	3.1	3.0	4.1	4.8	4.4
開所日数	21	18	22	20	18	20	22	20	21	19	18	23

③ 利用者の性別・年齢層 (令和4年3月末時点)

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	1	1	2	1	0	5
女	0	0	0	0	0	0	0
計	0	1	1	2	1	0	5

④ 障害種別 (令和4年3月利用者)

障害名	利用者数
精神障害	4名
知的障害	1名
身体障害	0名
手帳未取得	0名
その他	0名

【就労継続支援 B 型】

令和 3 年度 か～む業報告（案）

1. 運営状況

前年度の 1 日あたりの平均利用者数 15.7 人に対し、令和 3 年度は、13.7 人と前年度より 2 人減であった。新規利用者の受入れが 1 人に対して、退所者が 6 人であり、登録者数は 5 人減となっている。退所理由は、別の作業所への移行が 2 名、身体的な理由が 2 名、通所意欲がない方 1 名、死亡 1 名であった。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 内職作業

- i 亀井商店（日用品の包装など）：昨年同様、新型コロナの影響もなく主力として関わることができた。
- ii 福梅本舗（梅の箱詰め、シール貼り）：繁忙期と閑散期があり、定期的に仕事を貰えるわけではないが、単価も良く、障害が重い利用者も関わっている。
- iii オリムピック（保証書入れ、袋のシーラー止め、シール貼り）：2 月から始め、定期的に仕事を貰っている。

(2) 受託作業

- i 草引き：週に 1 回の午前中の作業で、参加者を募って行っている。作業所内の作業と差別化を図るため、手当をつけている。
- ii ペットボトル作業（キャップ外し、洗い、ラベルはがし）：週に 1 回午後からの作業で参加者を募って行っている。所内の作業と差別化を図るため、手当をつけている。
- iii 給食運搬：陽だまり、か～むと毎日運搬作業を行う。毎日することで昨年度より収入が増加した。
- iv 便利屋作業：サッシの張り替えや引っ越し作業を行う。参加してくれた利用者には、手当をつけている。
- v アルミ缶回収：白浜町内を中心に協力してもらっているところに週 1 回収を行い、整理、分別を行っている。
- vi 洗車：月に 1 回、参加者を募って職員の車を洗車。それ以外にも車両点検終了後、事業所の送迎車の洗車も行っている。

(3) 販売活動

- i ジュース販売：事業所内での販売。自販機より値段を安く設定して販売。毎日の売上計算や補充は利用者が担当。利用者に飽きがないよう、新しい商品の仕入れを行った。

(4) バザー活動

新型コロナ感染拡大のため、すべてのイベントが中止になり、昨年同様参加ができていない。

(5) その他

物品販売（そうめん、ちゃんぽん）をボーナスの資金作りとして取り組み、昨年度ぐらいの収入が確保できた。

② 生活支援活動

- (1) 利用者の日常生活能力の維持や向上を目的として、館内清掃や調理実習、昼食の配膳、食器洗い等の活動を行った。
- (2) 年 1 回の健康診断を実施し、必要に応じて関係機関や家族との連携に努め、支援を行った。また、朝礼後の散歩やレクリエーションでスポレクの実施など健康増進の取り組みを行った。
- (3) 金銭の相談や管理、申請書類の相談や同行、身だしなみ等について助言を行った。
- (4) 生活に必要な物品を購入し、それぞれの生活が充実するよう、コロナ感染予防対策を遵守しながら、買い物支援を継続して実施した。
- (5) 日々の体温チェックや手洗い、うがい、消毒などの新型コロナウイルス等の感染対策を実施した。

③ 個別処遇関係

- (1) 利用者の意向や課題を確認しながら支援計画書を作成し、定期的な見直しを行った。
- (2) 医師との意思疎通が難しい方や重篤な疾患がある方の受診同行を定期的に行い、家族、関係機関と連携して支援を行った。また、精神が安定されない方への緊急的な受診の同行も行い、家族、関係機関との連携に努めた。
- (3) 通所が滞った利用者に対し、関係機関と連携し電話連絡や訪問支援を行った。
- (4) 就労意欲がある利用者には、就労訓練実習等を紀南障害者就業・生活支援センターと連携し取り組んだ。

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) 町内会主催の地域イベントが新型コロナ感染拡大により中止となり、催しに参加できなかった。
- (2) アルミ缶回収を通して、地域の方や企業に引き続き協力していただいた。

4. その他の活動

- (1) 保護者懇談会は、新型コロナ感染拡大のため中止となった。
- (2) 介護保険サービスを併用する利用者の関係機関と、必要に応じて連携を行った。
- (3) 年 2 回（9 月、3 月）の防災訓練を実施し、利用者とは非常持ち出し袋の確認を行った。

(4) 休日開所を16日行った。作業だけでなく、調理実習やボラ事業（シーカヤック体験、アウトドア体験）などの余暇支援にも取り組んだ。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	1	串本ドライブ	
	8	DVD鑑賞	
	15	室内ゲーム	
5	6	DVD鑑賞	
	27	室内ゲーム	
6	3	すさみドライブ	
	10	買い物レク	
	17	DVD鑑賞	
	24	工作	うちわ、風鈴
7	1	BBQ	
	3	土曜開所	作業
	8	ゴルフ打ちっぱなし	
	15	買い物レク	
8	5	DVD鑑賞	
	9	休日開所	作業
	19	かき氷作り	
	21	土曜開所	作業
9	2	室内ゲーム	
	9	DVD鑑賞	
	11	土曜開所	作業
	16	買い物レク	
	23	休日開所	作業
	29	防災訓練	
10	7	新庄公園散策	
	14	買い物レク	
	21	DVD鑑賞	
	23	土曜開所	シーカヤック体験（ボラ事業）か作業
	28	釣り&バッティングセンター	
	30	土曜開所	作業
11	4	外食&ボウリング	
	5	インフルエンザ予防接種	三谷医院（別日12、19、26日）
	6	土曜開所	作業
	11	買い物レク	
	18	DVD鑑賞	
	27	土曜開所	調理実習（お好み焼き）
12	2	DVD鑑賞	
	4	土曜開所	アウトドア体験（ボラ事業）
	9	スポレク	
	16	買い物レク	
	18	土曜開所	作業
	23	クリスマス会&忘年会	
1	6	外食&初詣	
	13	買い物レク	
	15	土曜開所	作業
	20	DVD鑑賞	

	27 29	おしるこ作り 土曜開所	作業
2	3 10 11 17 23 24	たなべる見学 買い物レク 休日開所 室内ゲーム 休日開所 DVD鑑賞	
3	1 4 5 10 16 17 24 31	利用者健康診断 利用者健康診断 土曜開所 買い物レク 避難訓練、非常持ち出し袋点検 DVD鑑賞 忘年度会 お花見	はまゆう病院 はまゆう病院 作業

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労継続支援B型】	
定員	令和3年4月 20人	令和4年3月 20人
実利用者数	令和3年4月 26人	令和4年3月 20人
1日平均利用者数	令和3年4月 15.2人	令和4年3月 13.7人
職員常勤換算配置数	令和3年4月 4.9人	令和4年3月 4.9人
年間稼働日数	総稼働日数 254日	休日開所日数 16日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	内職作業	863,869
	受託作業	625,570
	販売活動(自販機、ジュース販売)	446,971
	その他(和作連物品、便利屋作業他)	236,467
		計 2,172,877円

工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 6,551 円	実績 月額 7,573 円
-----------------	--------------------	------------------

② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	15.2	15.9	14.1	13.7	12.2	12.6	14.2	13.9	12.9	12.9	13.4	13.7
開所日数	21	18	22	21	20	22	23	22	22	20	20	23

③ 利用者の性別・年齢層（令和4年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男			1	4	4	2	11
女			2	2	4	1	9
計			3	6	8	3	20

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	11名
知的障害	4名
身体障害	4名
手帳未取得	1名
その他	0名

【就労継続支援 B 型・就労移行支援・就労定着支援】

令和 3 年度 すまいる事業報告（案）

1. 運営状況

令和 3 年度は、多機能型（就労移行支援・就労継続支援 B 型）の運営を継続するか検討しながらの運営であった。就労移行业は、2 名の利用者を一般就労に繋げることができたが、その後定員に届かずの運営になってしまった。就労移行支援を継続利用する利用者との話し合いを家族も交えて行い、希望者全員が他事業所で新たにサービスを受けるよりもサービス変更し現状でのサービスを継続して欲しい希望であった。利用者 4 名とも就労継続支援 B 型にサービス変更することが決まり、令和 4 年 3 月末で就労移行业を廃止することになった。就労継続支援 B 型事業は、4 名の新規利用者があり、2 名の利用者が退所することになった。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響もあり生産活動の見通しが年度当初立てづらかったが、今年度は順調に作業があり過去最高の売りに上げに繋げることができた。

2. 事業報告他

① 就労支援活動

(1) 就労移行支援

i 利用者状況 - 4 月からの新規利用者は、みはま支援学校卒業生とフォレスクール修了の 2 名の利用者だった。他 3 名の利用者は、今年度 2 年目の利用者と 3 年目の利用者で、3 年目の利用者は一般就労に繋げることができた。しかし、10 ヶ月経過後に精神的な不調で不眠傾向となり、復帰に向け定期通院しながら休養している。現在は、就労定着支援の利用者として支援を継続している。

ii 就労訓練内容 - 今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、就労実習の機会が上半期は少なかった。その際、実習の予定変更の指示を混乱せず柔軟に受入れることができるか等の様子を見守ることができた。下半期は、利用者全員実習に行く回数を増やし自力通勤の安全性、仕事する体力、職場マナーの習得に繋げた。

ぼのぼの工場の活動は、利用者を固定し反復練習することで日々の作業習得（弁当準備・調理補助・片付け・次の日の下準備・清掃等）に繋げ、週 5 日の日替わり弁当販売と、接客業での就労訓練を行った。今年度は売りに上げ月間として梅収穫時期にお弁当配達する取り組みを行い 1 ヶ月で予想以上の収益を得ることができた。

iii 就労状況 - 利用者のうち 2 名が、先に障害者雇用で繋がりのある事業所（病院内清掃）と販売業に就職した。就職後 1 名は、社会性と仕事内容のマッチングの問題があり 1 年で離職することになった。もう 1 人は、ストレスの脆弱性もあり年明けより体調を崩し病気療養中。本人の様子を見守り復帰予定の支援をアンカーと検討している。

今年度は、2名一を般就労に繋げたが結果として就労定着できなかった。共通して社会性の習得の課題が浮き彫りになった。

(2) 就労継続支援 B 型

- i 利用者状況 - 今年度の新規利用者は、4名（女性 20代～50代）であった。共通していることは、以前 A 型サービスを利用していたが、精神的な不安が続き通所できなくなり退所。そのうち3名の方は受診同行支援が必要な方、1名の方は障害特性に配慮した支援が必要な利用者だった。退所者は、1名。男性利用者（63歳）で話を聞いてくれた利用者が居なくなった頃より不安定な通所となる。単身生活者のため、できるだけ日中のリズムを崩さない支援を本人と一緒に考え他事業所への実習を進める。環境の変化（同年代の利用者、作業内容）で気持ちの変化もあったようで、本人、関係機関との話し合いを行い他事業所へ移行し、現在週3回通所できている状況。
- ii 就労訓練内容 - 前年度と違い施設内作業がとまることはなかった。繁忙期以外は作業時間を短縮して作業に集中する環境作りに努め、繁忙期は時間延長と土曜日開所で納品のノルマ達成に繋げるよう取り組んだ。取り組んだ結果工賃アップと、以前から目標で掲げていた平均工賃 25,000 円を渡す事ができた。
- iii 就労状況 - 今年度は1名就労予定で考えていたが、焦るほど精神的に不安定になり通所の安定にも繋がらなかった。再度本人、医療機関、関係機関でアセスメントを行い本人の就労意欲の確認を行った。意見交換することで、仕事をするためにも体調の安定が必要な事が受け入れることができたようで、自分のペースで仕事に就く準備を前向きに受け入れることができて体調面の安定にも繋がった。

(3) 就労定着支援

- i 利用者状況 - 今年度就労した利用者1名が新規利用者となり5名の利用者の支援を行った。他4名は以前から支援している利用者で、就労面での安定は図れている。
- ii 就労定着内容 - 月1回の面談と事業所訪問を行った。事業所訪問は、新型コロナウイルス感染症の動向を見ながらの訪問になってしまい訪問できない月もあった。必要な際は、受診同行し主治医と情報交換、共有する支援を行った。
面談を通しての相談は、新型コロナウイルス感染症の件で休みの日の外出制限等でストレスが溜まってしまう話が多かった。新規利用者の体調面のサポートは、主に家族が見守っている状況なので本人の様子を関係機関と一緒に見守り、本人の意思を確認し復帰に向けた支援内容を検討していく予定。

(4) 障害者相談支援事業

- i 相談者状況 - 今年度よりじのわが委託事業の窓口となり必要な際は、ケース会議に参加し相談者の内容を申し送りする形で連携した。今年度は、8人（精神 5・知的 2・発達 1）の方の申し送りを行った。
- ii 相談事業内容 - 相談内容が多かったのは今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響

響で仕事場の事業縮小により仕事場がなくなりお金で困っている相談、A 型事業所の利用者は時間短縮で収入が減り精神的な不安が継続している。いつまでこの状況が続くのか等。福祉サービスに繋がっていない相談者の方は、委託相談窓口へ繋げるよう連携し相談窓口体制の整備に繋がった。

(5) 計画相談事業

i 相談状況 - 今年も 50 人（精神 22・知的 25・身体 2・その他 1）の計画相談を行った。

新規の相談もあったが職員体制が不十分なため、新規利用者を受け入れず計画相談者の整理を行った。

ii 相談事業内容 - 相談内容が多かったのは、単身生活者の相談者で濃厚接触者になり PCR 検査を受け結果が出るまでの不安、その後も待機しないといけない等の相談であった。電話相談等で対応し難はしのげたが…。継続して家族、関係機関での本人へのサポート体制の見直しの必要性を感じた。その他は、本人、家族との面談を行い福祉サービスの更新、変更、福祉サービス終了の支援を行った。

② 生活支援活動

(1) 生活習慣 - 通所時の確認（挨拶・身だしなみ等）を行い必要な利用者には家族にも家での声掛け、確認を協力してもらい支援を行った。食事面では、給食提供時の盛り付けの手伝い、後片付けを当番制（1 週間毎）で取り組んでもらった。

週 5 日の後片付けを行うことでゴミ分別、残飯整理等清潔な衛生を保つ意識付けを図ることができた。調理実習は、新型コロナウイルス感染症予防もあり 1 回（カレーライス・たこ焼き）少人数で行うことしかできなかった。

(2) 健康管理 - 今年度も通所者全員に健康診断を、年 1 回受けて貰い、病気の早期発見、早期治療に繋げる支援を行った。新型コロナウイルス関係では、4 名の利用者が家族が濃厚接触者になり PCR 検査の結果が出るまでの間通所を自粛して貰った。

施設内では、マスク着用の声掛け、手洗い、アルコール、ソーシャルディスタンス、黙食を行い、感染予防の強化に繋げ、長期休暇の際は、家での検温、通所前の抗原検査等を徹底して行い、感染予防と早期発見できるよう取り組んだ。

(3) 金銭管理 - 必要な利用者は、金銭管理を行った。そして、将来の生活に向けての話合いを家族、関係機関で行い、社協の福祉サービス利用援助事業に繋がった。

(4) 受診同行 - 利用者の体調面、精神面の観察を行い、気になる利用者は、声掛け支援（服薬の声掛け・確認）を行った。必要な際は、本人、家族との話し合いを行い、受診同行し、主治医と情報交換、共有し支援内容の調整に繋げ、病状の安定と回復に繋げる支援を行った。

③ 個別処遇関係

利用者の意向を尊重し、家族の意見も交えられるだけ目標が達成できる支援計画の作成を心がけた。自分の目標を立てづらい利用者は、家族からの聞き取りで情報共

有し、本人ペースで自立していくために取り組む支援内容を一緒に考え作成し実践した。

3. 地域交流・地域貢献活動

- ① 紀の国わかやま文化祭 in みなべ町のパネル展示、利用者絵画プリントグッズ展示、手芸（クラフトバッグ等）展示の参加。
- ② ぼのぼの工房店内での展示、利用者の作品展示会開催、販売を11～1月まで行った。その他サロン、ワークショップ、バザーの開催は、新型コロナウイルス感染症予防のため開催しなかった。
- ③ 地域住民の方が継続して、古着、漆器類、羽毛布団回収に協力してくれているため、授産活動の収益にも繋がっている。

4. その他の活動

- ①他事業所との交流会（スポーツ交流会・映画会上映等）も新型コロナウイルス感染症予防のため参加する事ができなかった。
- ②非常災害に備えるための、防災学習、訓練の実地。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4			新型コロナウイルス感染症拡散予防のため中止
5			新型コロナウイルス感染症拡散予防のため中止
6			梅収穫作業繁忙期のため余暇活動自粛
7	20 29	・ストレッチ体操（はあと館） ・お弁当日（ぼのぼの弁当）	梅収穫作業繁忙期のため余暇活動自粛
8			新型コロナウイルス感染症拡散予防のため中止
9			新型コロナウイルス感染症拡散予防のため中止
10	27 29	・避難訓練（1回目） ・すまいる運動会（共和球場）	
11	13 14	・紀の国わかやま文化祭 in みなべ町 (ホテル&リゾート和歌山みなべ)	
12			施設内作業繁忙期のため余暇活動自粛
1	4	・初詣（須賀神社） 雑煮（ぼのぼの工房）	
2	3	・豆まき（お菓子を配る）	
3	28 29	・花見・球技大会（清川球場） 屋台（たこ焼き） 調理実習（カレーライス） ・避難訓練（2回目）	

3/31	・会食会を兼ねてのお別れ会 (アラカルト弁当注文)	
------	------------------------------	--

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労移行支援】		【就労継続支援 B 型】	
	定員	令和 3 年 4 月 6 人	令和 4 年 3 月 6 人	令和 3 年 4 月 20 人
実利用者数	令和 3 年 4 月 5 人	令和 4 年 3 月 4 人	令和 3 年 4 月 24 人	令和 4 年 3 月 27 人
1 日平均利用者数	令和 3 年 4 月 5 人	令和 4 年 3 月 4.3 人	令和 3 年 4 月 19.9 人	令和 4 年 3 月 21.2 人
職員常勤換算配置数	令和 3 年 4 月 3.4 人	令和 4 年 3 月 3.4 人	令和 3 年 4 月 6.3 人	令和 4 年 3 月 6.3 人
年間稼働日数	総稼働日数 249 日	休日開所日 9 日	総稼働日数 249 日	休日開所日 9 日
授産科目及び授産収入	科目		収入 (円)	
	飲食業務 (ぽの)	3,806,770	自主製品	575,128
	施設内	0	施設内	3,259,983
	施設外	0	施設外	2,682,918
	受託作業	0	受託作業	991,194
	計	3,806,770 円	計	7,509,223 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 25,000 円	実績 29,263 円	当初目標 月額 18,000 円	実績 25,014 円

② 利用実績 (月別)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均 利用者数	24.9	24.9	25.2	25.0	24.8	25.1	25.2	25.3	25.3	25.3	25.4	25.5
開所日数	21	18	22	21	19	20	22	20	23	20	20	23

③ 利用者の性別・年齢層（令和4年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	1	8	3	2	2	2	18
女	0	9	2	3	1	0	15
計	1	17	5	5	3	2	33

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	12名
知的障害	20名
身体障害	1名
手帳未取得	1名
その他	0名

【就労継続支援 B 型】

令和 3 年度 いなづみ作業所 事業報告（案）

1. 運営状況

2名の利用者が週に数回デイサービスとの併用になり、また同居家族の高齢化で住居での服薬管理に手が回らず入院となったり、利用者が高齢の親を介護しているケースもみられるなど、高齢者への生活支援に力を入れた1年だった。

また、トイレの失敗等で着替えをする場面が多く、トイレに設置した簡易シャワーの使い勝手の悪さが目立った。（利用者のプライバシーへの配慮等）

日中、外作業には参加せず所内で過ごされる利用者も増えてきたため、少量ではあるがかつお節の袋詰めの内職作業を始めた。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 委託作業

i 太陽光発電所の管理

通常の草引きに加え老朽化した施設の修繕や機器の交換を行った

ii すさみ町から受注した草刈り作業

漁港の広範囲な草刈り等、かなり重労働な作業だった

その他、若者広場の草引きとトイレ清掃作業（週1回）

iii すさみ社協の洗車作業

利用者2名がすさみ社協に出向き、公用車の洗車を行った

(2) 生産作業

i EM ボカシ

米ぬかと魚粉を主原料とし EM 菌を混ぜて製造、リピーターが多く人気商品

ii リサイクル石鹼

社協の給食事業で出た廃油を原料にして製造

iii 野菜

作業所裏の駐車場に作った畑で野菜を育てている。主にハードな作業に参加できない利用者のための作業になっている

iv 堀長木材のたんば制作

堀長木材で廃材を利用し、キャンプ場用の薪を作る作業

(3) リサイクル作業

i アルミ缶の仕分け・洗浄

ii ダンボールの回収・箱詰め

(4) 便利屋作業

- i 洗濯作業…すさみ病院の入院患者さんの衣類の洗濯
- ii お墓掃除…年間契約でお供え物の用意などもしている
- iii 洗車…作業所まで乗ってきて洗車後返却している
- iv 草刈り・草引き…庭や畑、空き地の草刈り
- v 不用品の処分…家具などの運び出しや処分

(5) 内職作業

- i ひのきオイルの瓶詰…ひのきオイルを指定の小瓶に詰める作業
- ii かつお節の袋詰め…町内の工場で作ったかつお節を袋に詰める作業

(6) バザー活動

イノブタダービー、町民運動会、ふれ愛まつり、弓矢八幡愛の会バザー等、全ての行事が中止になりバザー活動は全くできなかった。

② 生活支援活動

(1) 受診同行

- i 医師との意思疎通が難しい利用者の月 1 回の定期受診に同行し、作業所内での様子ヘルパーから聞いた様子を医師に伝えた。
- ii 町内の歯科医院への通院を援助し、治療方針等の相談に乗った。

(2) 散髪支援

町内の理髪店から作業所まで出張してもらい、定期的に足の不自由な利用者の散髪をしてもらった。

(3) 買い物支援

- i 金銭管理が必要な方、食事制限が必要な方を対象に、週に 1 回オークワへの買い物に同行し、購入物の確認や支払いの支援をした。
- ii 町内で調達できないもの（靴や衣服、百貨の商品等）について、田辺市内まで出かけたたり、代理注文をして通販で調達した。

(4) 食事支援

社協の配食サービスを打ち切られてしまった利用者のために、町内の惣菜店に協力してもらい夕食のお弁当を用意してもらった。

(5) 金銭管理

自己管理が難しい方、アルコール依存や糖尿病等で食事制限がかけられている方のために 8 名の方の金銭管理をした。

(6) 健康診断

町の健康診断も含め、利用者全員に受けてもらうことができた。

③ 個別処遇関係

個別支援計画の作成から実施にかけて、すさみ社協や他のデイサービス等々との連携により、利用者に必要なサービスを策定し提供した。

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) 便利屋を通じ、今までお付き合いのなかった町民の皆さんに利用者の働く姿を見てもらえる良い機会になった。
- (2) グラウンドゴルフやゲートボールへの参加も、コロナの影響で全くできなかった。

4. その他の活動

(1) 防災訓練

6月と3月の2回、消防所職員の指導の下で訓練を行った。

特に灯油やガソリンの恐ろしさをDVDの映像を見て知ってもらった。

また職員向けに、心臓マッサージや誤飲による気道閉塞の際の応急処置を指導してもらった。

(2) 旅行

コロナの影響で今年も未実施になった。利用者からは要望の声が上がっている。

(3) 余暇支援活動

労働によって得た工賃を自分の楽しみに使う喜びを感じてもらうために、ショッピングと外食に出かけた。

新型コロナウイルス感染へのリスクを考え、調理実習については実施を見送った。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	20	わらび採取	
5	31	ジャガイモ掘り (町イベント)	
6	23 24	防災訓練 (火災訓練) 外食・買い物レク (串本)	
7			
8	18	ブルーベリー狩り	
9			
10			
11	9	メンバー自宅へ防火訪問	消防署員のアドバイスをもらう
12	28	忘年会 (所内にて)	
1	3	初詣	
2	9	たなべるへ作品展示会見学	
3	28	防災訓練 (地震)	

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労継続支援 B 型】	
定員	令和 3 年 4 月 20 人	令和 4 年 3 月 20 人
実利用者数	令和 3 年 4 月 20 人	令和 4 年 3 月 19 人
1 日平均利用者数	令和 3 年 4 月 15.8 人	令和 4 年 3 月 16.2 人
職員常勤換算配置数	令和 3 年 4 月 4.9 人	令和 4 年 3 月 4.9 人
年間稼働日数	総稼働日数 246 日	休日開所日数 6 日
授産科目及び授産収入	科目	収入 (円)
	委託作業	1,970,250
	生産作業	151,620
	リサイクル作業	226,202
	便利屋作業	3,116,849
	内職作業	35,950
	バザー活動	0
	物品販売	230,700
		計 5,731,571 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 25,000 円	実績 月額 21,763 円

② 利用実績 (月別)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均利用者数	15.8	15.8	16.2	16	15.4	16	16	16.1	14.9	15.8	13.8	16.2
開所日数	21	19	22	22	20	20	21	20	22	18	18	22

③ 利用者の性別・年齢層 (令和 4 年 3 月末時点)

性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
男	0	1	3	0	4	7	15
女	0	0	0	2	0	2	4
計	0	1	3	2	4	9	19

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	8名
知的障害	8名
身体障害	3名
手帳未取得	1名
その他	0名